

PC98-NX シリーズ・DOS/V マシン用  
IEEE802.11b 無線LAN PC カードアダプタ  
**WN-B11/PCM**

**取扱説明書**

---

株式  
会社 **アイ・オー・データ機器**

## 【ご注意】

- 1) 本製品及び本書は株式会社アイ・オー・データ機器の著作物です。  
したがって、本製品及び本書の一部または全部を無断で複製、複写、転載、改変することは法律で禁じられています。
- 2) 本製品及び本書の内容については、改良のために予告なく変更することがあります。
- 3) 本製品及び本書の内容について、不審な点やお気づきの点がございましたら、弊社PLANTコールセンターまでご連絡ください。
- 4) 本製品を運用した結果の他への影響については、上記にかかわらず責任は負いかねますのでご了承ください。
- 5) 本製品は「外国為替及び外国貿易法」の規定により戦略物資等輸出規制製品に該当する場合があります。  
国外に持ち出す際には、日本国政府の輸出許可申請などの手続きが必要になる場合があります。
- 6) 本サポートソフトウェアの使用にあたっては、バックアップ保有の目的に限り、各1部だけ複写できるものとします。
- 7) 本サポートソフトウェアに含まれる著作権等の知的財産権は、お客様に移転されません。
- 8) 本サポートソフトウェアのソースコードについては、如何なる場合もお客様に開示、使用許諾を致しません。また、ソースコードを解明するために本ソフトウェアを解析し、逆アセンブルや、逆コンパイル、またはその他のリバースエンジニアリングを禁止します。
- 9) 書面による事前承諾を得ずに、本サポートソフトウェアをタイムシェアリング、リース、レンタル、販売、移転、サブライセンスすることを禁止します。
- 10) 本製品は、医療機器、原子力設備や機器、航空宇宙機器、輸送設備や機器など人命に関する設備や機器、及び高度な信頼性を必要とする設備や機器としての使用またはこれらに組み込んだの使用は意図されておりません。これら、設備や機器、制御システムなどに本製品を使用され、本製品の故障により、人身事故、火災事故、社会的な損害などが生じても、弊社ではいかなる責任も負いかねます。設備や機器、制御システムなどにおいて、冗長設計、火災延焼対策設計、誤動作防止設計など、安全設計に万全を期されるようご注意願います。
- 11) 本製品は日本国内仕様です。本製品を日本国外で使用された場合、弊社は一切の責任を負いかねます。また、弊社は本製品に関し、日本国外への技術サポート、及びアフターサービス等を行っておりませんので、予めご了承ください。(This product is for use only in Japan. We bear no responsibility for any damages or losses arising from use of, or inability to use, this product outside Japan and provide no technical support or after-service for this product outside Japan.)
- 12) お客様は、本サポートソフトウェアを一時に1台のパソコンにおいてのみ使用することができます。
- 13) お客様は、本製品または、その使用权を第三者に対する再使用許諾、譲渡、移転またはその他の処分を行うことはできません。
- 14) 弊社は、お客様が【ご注意】の諸条件のいずれかに違反されたときは、いつでも本製品のご使用を終了させることができるものとします。

I-O DATA, PLANTは、株式会社アイ・オー・データ機器の登録商標です。

Microsoft, Windows, Windows NTは、米国 Microsoft Corporationの登録商標です。

その他、一般に会社名、製品名は各社の商標または登録商標です。

WN-B11/PCM 取扱説明書

2001.Apr.17 85386-03

発行 株式会社アイ・オー・データ機器

〒920-8512 石川県金沢市桜田町 3 丁目 1 0 番地

© 2000-2001 I-O DATA DEVICE, INC. All rights reserved.

本製品及び本書は著作権法により保護されておりますので  
無断で複写、複製、転載、改変することは禁じられています。

ここにVerシールをお貼りください

Verシール

ここにVerシールをお貼りください

Verシール

# もくじ

もくじ	1
本書での呼び方	2
本製品が使用できるまでの流れ	3
本製品の特長	4
本製品で使用する電波について	5
その他使用上の注意	6

<b>第1章</b>	使う前に	1
	箱の中の確認	2
	動作環境の確認	3
	各部の名称・機能	6
	バックアップディスクの作成	7

<b>第2章</b>	使う前の準備（インストール）	9
	1. Windows 2000/Me/98/95	10
	2. Windows NT 4.0	25
	3. インストール後の確認	40

<b>第3章</b>	本製品を設定する	51
	本製品の設定	52

## 第4章 使ってみる…………… 5 7

無線LANアダプタ同士だけで  
通信するには… 58

通信を暗号化するには …………… 73

アクセスポイントと通信するには………… 78

インターネットにアクセスするには………… 82

## 第5章 取り外す場合 …………… 8 5

本製品の取り外し …………… 86

## いろいろ…………… 8 9

困ったときには…………… 90

ユーティリティについて …………… 105

本製品を削除するには …………… 114

ネットワークコンポーネントについて …… 115

本製品のMACアドレスについて………… 126

用語解説…………… 127

仕様…………… 130

PLANTコールセンターへのお問い合わせ………… 132

ユーザー登録…………… 133

設定ユーティリティのバージョンアップ………… 134

保証について…………… 135

修理について…………… 136

# 本書での呼び方

呼び方	意味
Windows 2000	Microsoft® Windows® 2000 Professional
Windows Me	Microsoft® Windows® Millennium Edition
Windows 98	Microsoft® Windows® 98 Operating Systemおよび Microsoft® Windows® 98 Operating System Second Editionの総称
Windows 95	Microsoft® Windows® 95 Operating System
Windows Me/98/95	Windows Me, Windows 98, Windows 95の総称
Windows 2000/Me/98/95	Windows 2000, Windows Me, Windows 98, Windows 95の総称
Windows NT 4.0	Microsoft® Windows NT® Operating System Version 4.0 Workstation
Windows	Windows 2000, Windows Me, Windows 98, Windows 95, Windows NT 4.0の総称

# 本製品が使用できるまでの流れ

本製品は、無線LAN PCカードです。

本製品を使用する場合、以下の流れに沿ってお読みください。

## 第1章

### 取り付け前の確認・準備

本製品を取り付ける前の確認・準備を行います。

- ・箱の中身を確認します。
- ・本製品を使用できるパソコンの機種やOSを確認します。
- ・各部の名称・機能を確認します。
- ・バックアップディスクを作成します。

## 第2章

### 使う前の準備(インストール)

本製品を使用する上で必要な「設定ユーティリティ」内のドライバソフトをインストールします。

添付の  
設定ユーティリティディスク



インストール



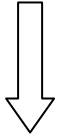
本製品の挿入



## 第3章

### 本製品を設定する

無線LANに必要な設定を行います。



## 第4章

### 試してみる

本製品を使ってください。

#### 無線LANアダプタ同士の通信



本製品同士あるいは、弊社製無線LAN USBアダプタ等との通信

#### 通信の暗号化



暗号化の標準であるWEPを使用して通信を暗号化

#### アクセスポイントとの通信



アクセスポイント

LANケーブルで  
接続されている  
既存のネットワーク

無線LAN アクセスポイントとの通信



# 本製品の特長

## ケーブル配線不要！ 無線でできるネットワーク構築

従来のようなネットワークケーブルによる配線は不要なので、パソコンを自由に設置することができます。

## 最大到達距離は屋内約100m 屋外約240m

環境によっては、データ到達距離が短くなったり、あるいは、データが届かない場合があります。

## IEEE802.11b準拠無線高速データ通信11Mbps(理論値)が可能

ネットワーク構築後は、ファイルやプリンタの共有が可能です。

## スタミナ通信対応！

低消費電流設計で、モバイルノートパソコンも長時間バッテリー駆動可能。

## マルチチャンネル対応

1～14chの複数の通信チャンネルに対応しているため、最も快適に通信できるチャンネルを自由に選択することができます。

## Ad hoc(アドホック)、Infrastructure(インフラストラクチャ)の両モードに対応

両モードに対応しているため、ピア・ツー・ピア(Peer to Peer)のネットワーク環境や大規模なネットワーク環境のどちらでも利用できます。

## ダイバーシティ機能搭載

受信感度の良い方を切り替えながら通信を行うため、安定した通信を実現します。

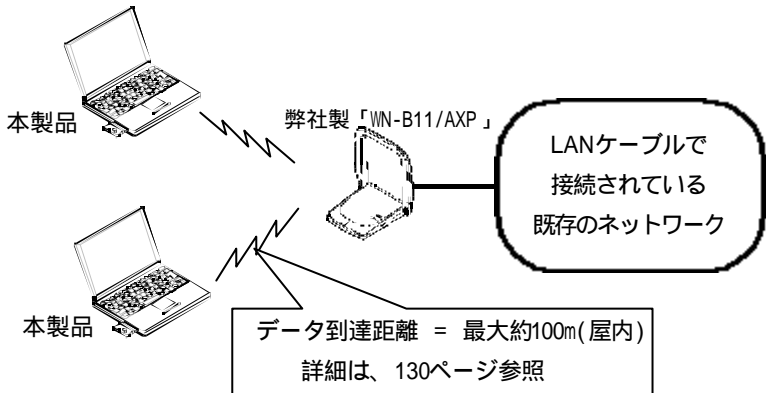
## セキュリティ機能搭載

SS ID(Service Set ID)、WEP(Wired Equivalent Privacy)により、伝送されたデータを保護することができます。

弊社製無線LANアクセスポイント「WN-B11/AXP」や  
無線LAN USBアダプタ「WN-B11/USB」と通信接続が可能

無線LANアクセスポイント「WN-B11/AXP」を使用したネットワークや、  
無線LAN USBアダプタ「WN-B11/USB」と通信することができます。

<ネットワーク構築例>



PCカードだから、簡単インストール

インストール後はパソコンにPCカードを差し込むだけで、  
簡単にネットワークが利用できるので、ノートパソコンに最適です。

安心トータルサポート

ネットワーク製品専用サポートダイヤルを設置。（132ページ参照）

# 本製品で使用する電波について

本製品は、2.4GHz帯域の電波を使用しています。

本製品を使用する上で、無線局の免許は必要ありませんが、以下および次ページの注意をご確認ください。

## ・以下の近くでは使用しないでください。

- ・電子レンジ/ペースメーカー等の産業・科学・医療用機器等
- ・工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）
- ・特定小電力無線局（免許を要しない無線局）

上記の機器等は、無線LANと同じ電波の周波数帯を使用しています。

上記の近くで本製品を使用すると、電波の干渉を発生する恐れがあります。

そのため、通信ができなくなったり、速度が遅くなったりする場合があります。

## ・携帯電話・PHS・テレビ・ラジオを本製品の近くでは、できるだけ使用しないでください。

携帯電話・PHS・テレビ・ラジオ等は、無線LANとは異なる電波の周波数帯を使用しています。

そのため、本製品の近くでこれらの機器を使用しても、本製品の通信およびこれらの機器の通信に影響はありません。

ただし、これらの機器を無線LAN製品に近づけた場合は、本製品を含む無線LAN製品が発する電磁波の影響によって、音声や映像にノイズが発生する場合があります。

## ・間に鉄筋や金属およびコンクリートがあると通信できません。

本製品で使用している電波は、通常の家屋で使用されている木材やガラス等などは通過しますので、部屋の壁に木材やガラスがあっても通信できます。

ただし、鉄筋や金属およびコンクリートなどが使用されている場合、電波は通過しません。部屋の壁にそれらが使用されている場合、通信することはできません。

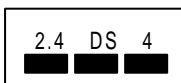
同様にフロア間でも、間に鉄筋や金属およびコンクリート等が使用されていると通信できません。

## 2.4GHz 帯使用の無線機器について

この機器の使用周波数帯では、電子レンジ等の産業・科学・医療用機器等のほか工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）及び特定小電力無線局（免許を要しない無線局）が運用されています。

- ・ この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局及び特定小電力無線局が運営されていないことを確認してください。
- ・ 万一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに使用周波数帯を変更するか、または電波の発射を停止した上、下記連絡先にご連絡いただき、混信回避のための処置等（例えば、パーティションの設置など）についてご相談ください。
- ・ その他、この機器から移動体識別用の特定小電力無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合など、何かお困りのことが起きた場合は、次の連絡先へお問い合わせください。

連絡先：PLANT コールセンター 電話： 金沢 076-260-3644  
東京 03-3254-1144



2.4：2.4GHz 帯を使用する無線設備を表す

DS：変調方式を表す

4：想定される与干渉距離を表す（ $\leq 40\text{m}$ ）

■■■：全帯域を使用し、かつ、移動体識別装置の帯域を回避可能であることを意味する。

## 電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。

取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

## その他使用上の注意

本製品は非常に精密にできておりますので、お取り扱いに際しては十分注意し、本製品に同梱されている小冊子「安全で快適にお使いいただくために」も必ずお読みください。

### ・取り扱い上の注意

- ・コネクタ部分に金属を差し込まないでください。
- ・ぬらさないでください。
- ・ラジオやテレビ、オーディオ機器の近くでは高周波の信号により、ノイズを与えることがあります。
- ・モータなどノイズが発生する機器の近くでは誤動作することがありますので、必ず離してお使いください。

### ・使用上の注意

- ・本製品はパソコンの「スタンバイ」、「スリープ機能」、「レジューム」、「ハイバネーション」には対応していません。  
本製品を使用する場合は、これらの機能は無効に設定してください。

### ・修理について

- ・本製品の修理は弊社修理センターにご依頼ください。（【修理について】（136ページ）参照）  
改造などを行って、電気的および機械的特性を変えて使用することは絶対にお止めください。

# 第1章

## 使う前に

この章では、本製品をパソコンへ取り付ける前の準備について、順を追って説明しています。

### 箱の中の確認

2ページ

箱の中身を確認します。

### 動作環境の確認

3ページ

本製品に必要な動作環境を確認します。

### 各部の名称・機能

6ページ

本製品の各部の機能・名称を確認します。

### バックアップディスクの作成

7ページ

添付の「設定ユーティリティ」、「」の3枚のディスクのバックアップディスクを作成します。

# 箱の中の確認

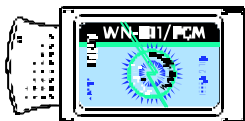
ご使用の前に以下のものがそろっていることをご確認ください。

万一、不足品がありましたら、弊社PLANTコールセンターまでお知らせください。

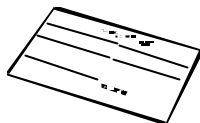
箱・梱包材は大切に保管し、修理などの輸送の際にご利用ください。



本製品 (1枚)



ハードウェア保証書 (1枚)



ディスク (3枚)

[ 3.5インチ2HD (1.44MB) ]

- ・設定ユーティリティ
- ・設定ユーティリティ
- ・設定ユーティリティ



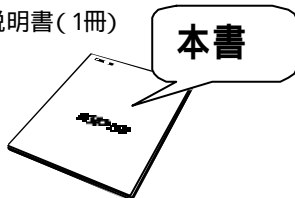
ハードウェアシリアルNo.シール  
(1枚)



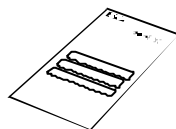
「無線LANについて」シール  
(1枚)



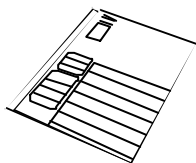
取扱説明書 (1冊)



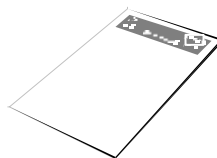
Verシール (2枚)



ユーザー登録カード (1枚)



『安全で快適にお使い  
いただくために』 (1冊)



# 動作環境の確認

本製品の動作環境を確認します。

## 対応機種

- CardBus規格に準拠したPCカードスロット(PCMCIA TYPE ) を搭載<sup>1</sup>し、フロッピーディスクドライブ(「設定ユーティリティ」のインストール用)を搭載<sup>2</sup>した下記の機種

- ・ NEC PC98-NXシリーズ
- ・ DOS/Vマシン

弊社では、OADG加盟メーカーのDOS/Vマシンで動作確認を行っております。

- 1 本製品は、16bit PCカード形状ですが、CardBus対応のパソコンが必要です。
- 2 フロッピーディスクドライブが無い場合は、次ページを参照してください。

## 対応OS (日本語版)

- Windows 2000
- Windows Me
- Windows 98(Second Edition含む)
- Windows 95 OSR2以降 (OSR2以降かの確認は5ページ参照)
- Windows NT 4.0 (Service Pack 4以上)

## 通信可能機器

IEEE802.11/IEEE802.11b準拠の無線LAN製品と通信できます。

既存の有線LAN (LANケーブルで接続されているネットワーク) との接続には、アクセスポイント (以下のWN-B11/AXP等) が必要です。

《弊社製品例: WN-B11シリーズ》

- WN-B11/PCM (本製品同士)
- WN-B11/AXP (別売の弊社製無線LANアクセスポイント)
- WN-B11/USB (別売の弊社製無線LAN USBアダプタ)



### 注意！

- ・ 弊社製無線LAN PC カードPCWN-W10 とは通信できません。
- ・ 弊社製コードレスネットワーク『シンフォニーシリーズ』(WN-S/560, WN-S/PCI, PCWN-S) とは通信できません。
- ・ 最新のサポートソフトは、弊社ホームページ(<http://www.iodata.co.jp/>) にてダウンロードできます。



## フロッピーディスクドライブが無い場合

本製品を使用するには、「設定ユーティリティ」、  
インストールするためのフロッピーディスクドライブが必要です。

パソコンにフロッピーディスクドライブが無い場合は、以下を行ってください。

- 1 インターネット上の弊社ホームページ(<http://www.iodata.co.jp/>)より、本製品の「設定ユーティリティ」、  
のファイルを手に入れます。
- 2 ハードディスクドライブ(Windowsがインストールされているドライブ)に、任意のフォルダを作成し、入手したファイルをそのフォルダで展開してください。

このあと、【第2章 使う前の準備】でのインストール時の手順内では、上記フォルダで展開したファイルの「Setup.exe」を起動してください。

## Windows 95 が OSR2 以降の確認方法

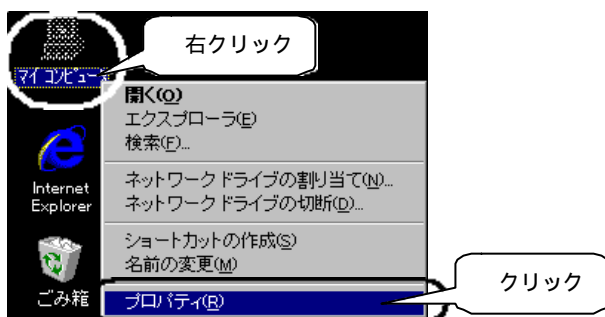
Windows 95には、OSR2より前とOSR2以降のバージョンがあります。

本製品では、OSR2以降のバージョンでのみ使用できます。

Windows 95のバージョンがOSR2以降かは、以下の方法で確認できます。

### 確認方法

- 1 [マイコンピュータ] を右クリックし、表示されたメニュー内の [プロパティ] をクリックします。



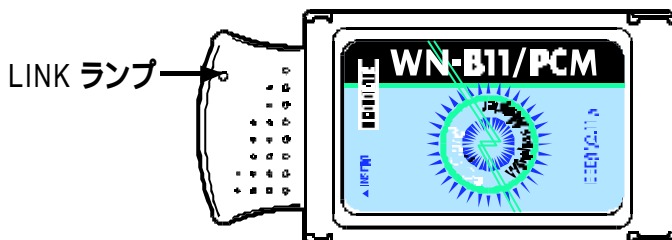
- 2 表示された [システムのプロパティ] 画面の [情報] タブでの [システム] 欄の番号で確認できます。



- ・表示されている番号が[4.00.950 B] または[4.00.950 C] の場合  
OSR2以降のバージョンです。  
本製品を使用できます。
- ・表示されている番号が[4.00.950] または[4.00.950a] の場合  
OSR2より前のバージョンです。  
本製品を使用できません。  
本製品で利用できるOS (対応OS : 3ページ参照) にバージョンアップしてください。

# 各部の名称・機能

各部の名称および機能の確認を行います。



ランプ	モード <sup>1</sup>	状態
LINK	Infrastructure	緑色点灯 : アクセスポイントと通信が行われている状態 緑色点滅 : ネットワーク上にアクセスポイントが見つからない状態 消灯 : 機能が停止している状態 (パソコンから取り外せる状態の時)
	Ad hoc	緑色点灯 : 通信できる他の無線LAN製品を探している状態、または、他の無線LAN製品と通信できる状態 緑色点滅 : ネットワーク上に通信可能な無線LAN製品が見つからない状態 消灯 : 機能が停止している状態 (パソコンから取り外せる状態の時)
	802.11 Ad hoc	緑色点滅 : 通信できる他の無線LAN製品を探している状態または、他の無線LAN製品と通信できる状態 消灯 : 機能が停止している状態 (パソコンから取り外せる状態の時)

<sup>1</sup> [モード]は設定ユーティリティで設定します。

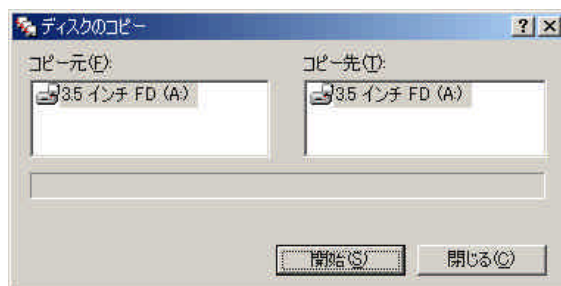
詳細については、109ページを参照してください。

# バックアップディスクの作成

本製品に添付されている「設定ユーティリティ 、 、 」の3枚のディスクは、必ず3枚ともすべてバックアップし、バックアップしたディスクの方をお使いください。

添付の「設定ユーティリティ 、 、 」のディスクは大切に保管してください。

- 1 1.44MBでフォーマット済みの空きフロッピーディスク (3.5インチ2HD)を3枚用意します。
- 2 添付の「設定ユーティリティ 、 、 」をすべて書き込み禁止にします。
- 3 [マイコンピュータ] [3.5インチ FD]を右クリックし [ディスクのコピー]を選択します。



- 4 メッセージにしたがって、1枚ずつバックアップし、3枚すべてバックアップしてください。

「設定ユーティリティ 、 、 」のディスクと空きのフロッピーディスクをメッセージにしたがって入れ替えながら、バックアップします。



## 注意！

「設定ユーティリティ 、 、 」のディスクを破損した場合の修理は有償です。必ずバックアップし、バックアップディスクの方をお使いください。

「設定ユーティリティ 、 、 」のディスクは大切に保管してください。

*MEMO*

## 第2章

# 使う前の準備(インストール)

この章では、本製品を使用する上で必要な「設定ユーティリティ」ディスク内のドライバソフトのインストール手順について説明します。

お使いのOSに該当するページだけを参照後、【3. インストール後の確認】を参照してください。

### 1. Windows 2000/Me/98/95

10ページ

Windows 2000/Me/98/95へのインストール方法を説明します。

### 2. Windows NT 4.0

25ページ

Windows NT 4.0へのインストール方法を説明します。

### 3. インストール後の確認

40ページ

インストールが正常かどうかの確認方法を説明します。

# 1. Windows 2000/Me/98/95

ここでは、Windows 2000/Me/98/95へのインストール手順について説明します。

## 用意するもの

- ・ 本製品
- ・ 添付の「設定ユーティリティ①」ディスク
- ・ 添付の「設定ユーティリティ②」ディスク
- ・ 添付の「設定ユーティリティ③」ディスク



### 注意！

パソコンにフロッピーディスクドライブが無い場合は、4ページを参照してください。  
次ページ以降では、「設定ユーティリティ」ディスクの挿入は不要となります。  
また、12 ページの手順 3では、展開したフォルダ内の[Setup.exe]を起動してください。

## インストール



**注意！**

挿入の指示があるまで、まだ本製品を PC カードスロットに挿入しないでください。

まだ挿入しないでください

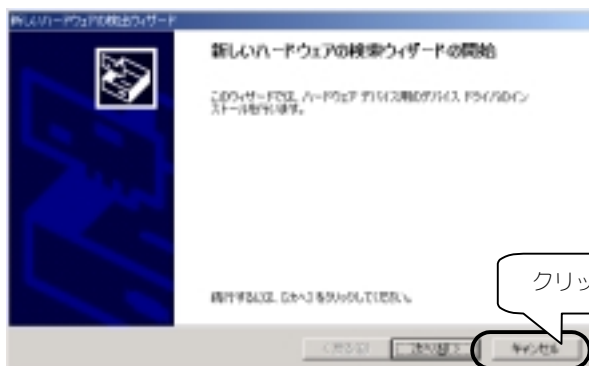


《カードを挿したまま、パソコンを起動してしまった場合…》

万一、カードを挿したままパソコンを起動した場合は、本製品を認識する画面(以下の画面)が表示されますが、以下の手順を行って、本製品を取り外してください。

- ①以下の画面の[キャンセル]ボタンをクリックし、中断します。
- ②そのまま、Windows を一旦起動し、Windows の終了を行います。
- ③パソコンの電源を切って本製品を取り外してください。

(画面はWindows 2000での例)





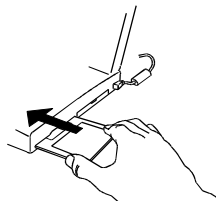
# 1 Windows 2000/Me/98/95を起動します。



## 注意！

Windows 2000 にて本製品を使用する場合は、Administrator 権限を持ったユーザーでログインしてご使用ください。

# 2 「設定ユーティリティ①」ディスクを フロッピーディスクドライブにセットします。



設定ユーティリティ①

# 3 [マイコンピュータ]→[3.5インチFD]→[Setup]を 順にダブルクリックします。



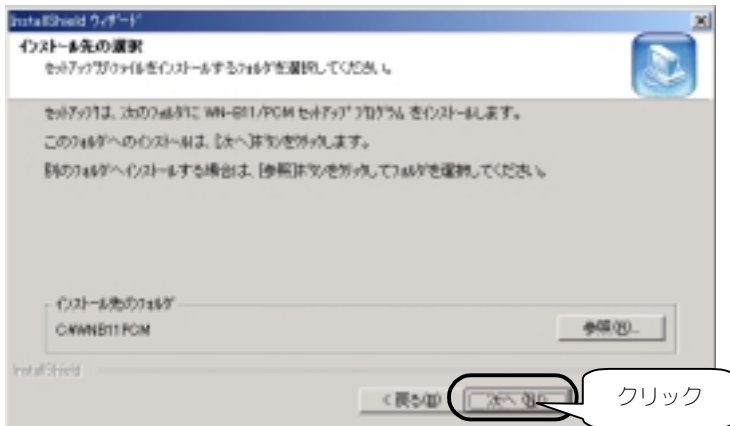
## 参考

お使いの環境によっては、[Setup]と表示されずに、[Setup.exe]と表示される場合があります。

- 4 以下のインストール画面が表示されます。  
[次へ]ボタンをクリックします。

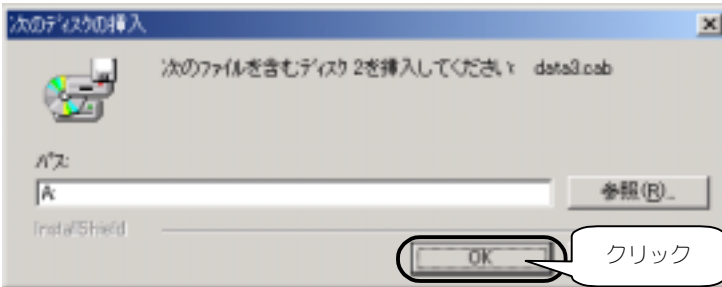
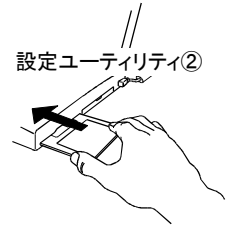


- 5 インストール先を指定する画面が表示されます。  
[次へ]ボタンをクリックします。



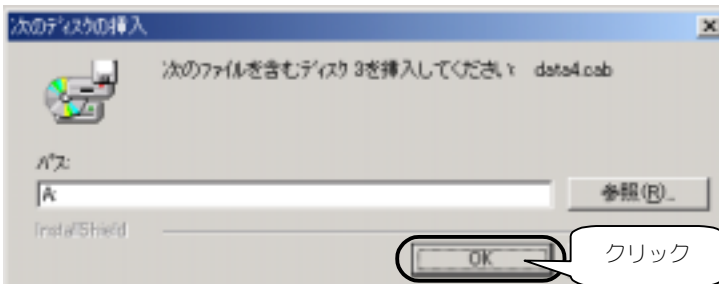
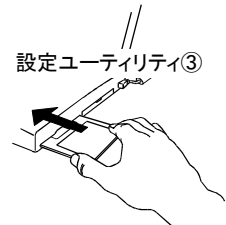
6

以下の画面が表示されたら、  
フロッピーディスクドライブの  
アクセスランプが消えていることを  
確認後、ディスクを  
「設定ユーティリティ②」ディスクに  
入れ替えて、[OK]ボタンをクリックします。



7

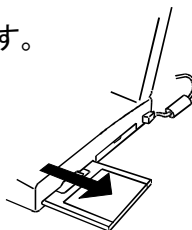
以下の画面が表示されたら、  
フロッピーディスクドライブの  
アクセスランプが消えていることを  
確認後、ディスクを  
「設定ユーティリティ③」ディスクに  
入れ替えて、[OK]ボタンをクリックします。



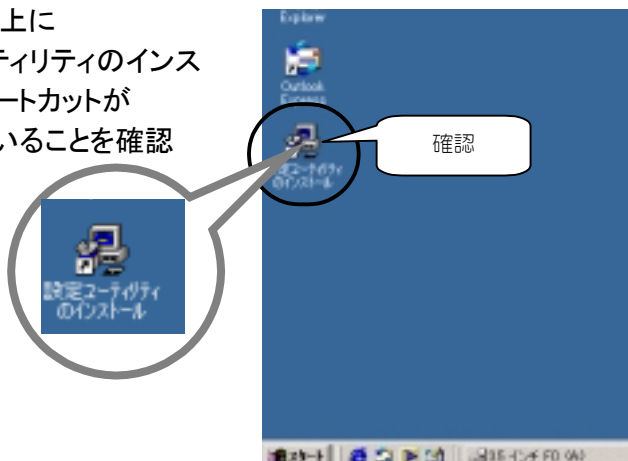
- 8 インストールが終了すると、以下の画面が表示されます。  
[完了]ボタンをクリックします。



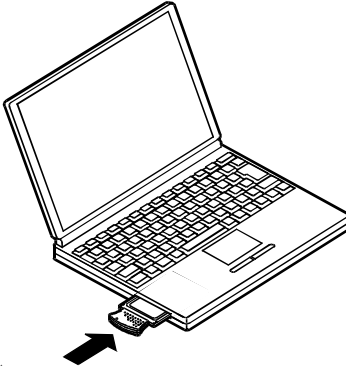
- 9 [設定ユーティリティ③]ディスクを抜きます。



- 10 デスクトップ上に  
[設定ユーティリティのインス  
トール]ショートカットが  
表示されていることを確認  
します。



- 11** 本製品のラベル面を上にして、  
PCカードスロットの奥まで挿入します。



PC カードスロットの位置は、  
お使いのパソコンによって  
異なります。  
パソコンの取扱説明書を参照  
してください。

- 12** 本製品がWindowsに「新しいハードウェア」として検出されま  
す。

•Windows Me/98/95の場合

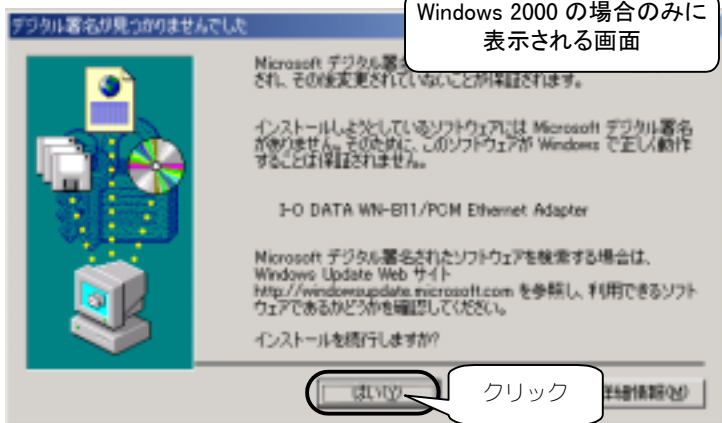
本製品のドライバが自動的にインストールされます。

手順 **13** へお進みください。

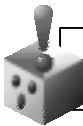
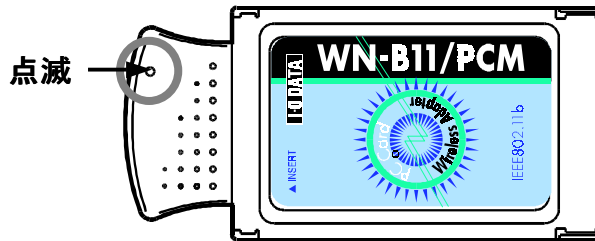
•Windows 2000の場合

以下の画面が表示されます。

[はい] ボタンをクリックして、手順 **13** へお進みください。



## 13 本製品の[LINK]ランプが点滅していることを確認します。



【LINK】ランプが  
点滅しない場合は…

【困ったときには】のP92  
をご参照ください。

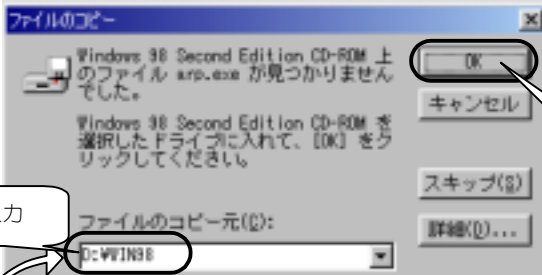
⇒以下の画面が表示された場合は…  
(Windows 98の場合)



- ① 「Windows 98 CD-ROM」を挿入します。
- ② [OK] ボタンをクリックします。

⇒以下の画面が表示された場合は……

(Windows 98およびWindows 95の場合)



①入力

②クリック

[ファイルのコピー元] に以下を入力し、[OK] ボタンをクリックします。

- ・Windows 98をご自分でインストールした場合  
D:¥WIN98 (CD-ROMドライブがDドライブの場合)
- ・Windows 98あるいはWindows 95プリインストールパソコンをお使いの場合  
Windows 98あるいはWindows 95がインストールされているドライブの  
¥WINDOWS¥OPTIONS¥CABS

ファイルのコピー元(C):  
C:¥WINDOWS¥OPTIONS¥CABS

Windows 98やWindows 95がCDドライブにプリインストールされている場合の入力例

※[OK] ボタンをクリック後、再起動を要求された場合は、パソコンを再起動してから、次ページの手順 14 へお進みください。



### 注意！

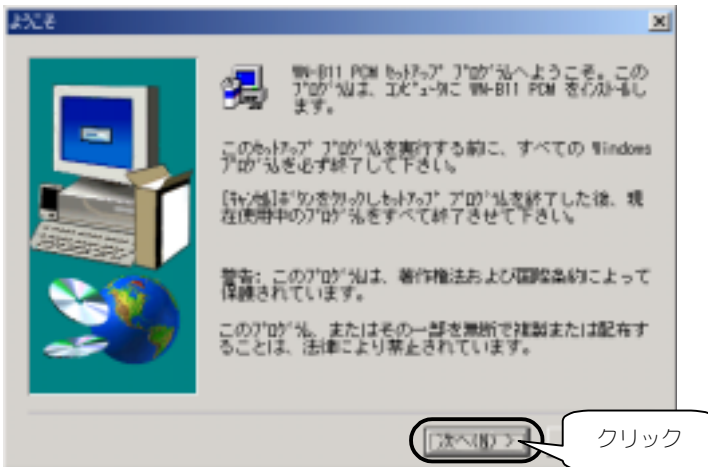
以下のアップグレードをした場合は、「C:¥WINDOWS¥OPTIONS¥CABS」は選択せず、CD-ROMドライブを参照してください。

- ・Windows 95 プリインストールモデルを、Windows 98(Second Edition 含む)へアップグレードした場合
- ・Windows 98 プリインストールモデルを Windows 98 Second Edition へアップグレードした場合

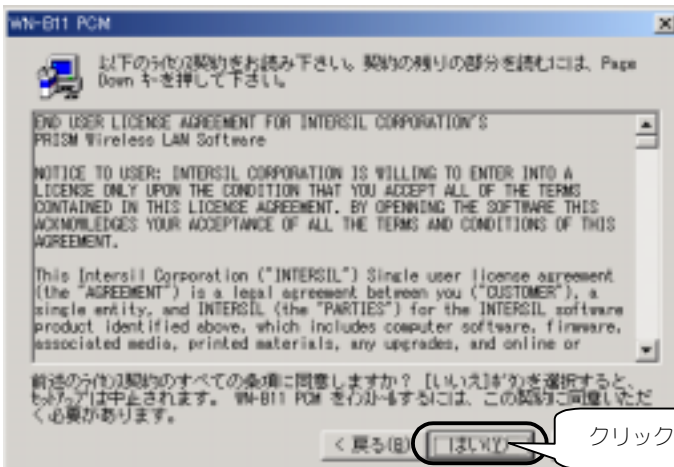
- 14** デスクトップ上の  
[設定ユーティリティのインストール]を  
ダブルクリックします。



- 15** 以下の画面が表示されますので、  
[次へ]ボタンをクリックします。

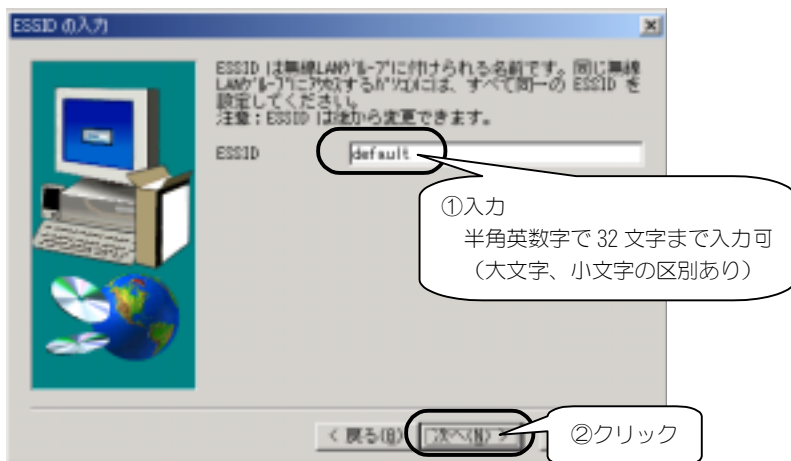


- 16** 内容を確認し、同意するなら[はい]ボタンをクリックします。





- 17** [ESS ID]を設定し、[次へ]ボタンをクリックします。  
アクセスポイント(弊社製WN-B11/AXP等)と通信する場合は、  
アクセスポイントの[SS ID](または[ESS ID])を入力してください。  
アクセスポイントと通信しない場合は、初期値[default]以外の  
値を入力してください。(他の通信する機器も同じ値に設定す  
る必要があります。)



### 注意！

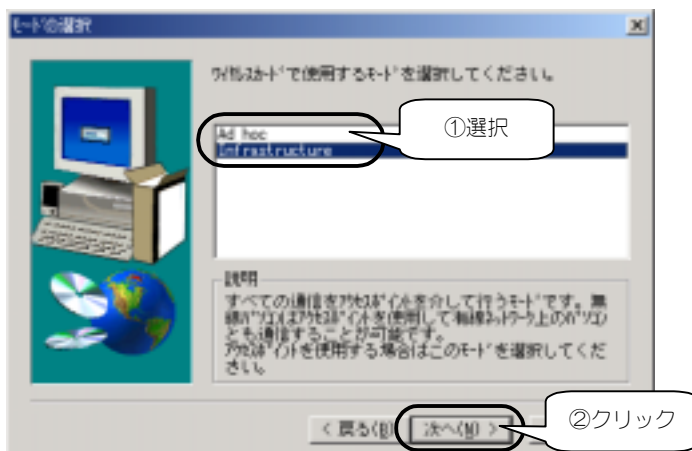
- ・本製品を含め、同一のアクセスポイントと通信する無線 LAN アダプタ製品は、すべて同じ ESS ID にする必要があります。
- ・ESS ID は半角英数字で 32 文字まで入力できます。(大文字、小文字の区別もあります。)
- ・ESS ID およびチャンネルの値が他の無線 LAN と重なると、他の無線 LAN に通信の内容が流れる、あるいは、他の無線 LAN の通信が来てしまいます。  
そのために起こったトラブルに対しては弊社は一切責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。



### 参考

- ・ESS ID とは、本製品とアクセスポイントの通信時に使用する識別用の ID です。  
アクセスポイント単位に割り当てられるため、同一のアクセスポイントに通信する無線 LAN 製品は、同じ ID にする必要があります。  
無線 LAN 製品によっては、SS ID と記載されている場合もあります。
- ・アクセスポイント使用時の通信チャンネルはアクセスポイントの通信チャンネルが使用されます。

# 18 通信モードを選択します。 選択後、[次へ]ボタンをクリックします。



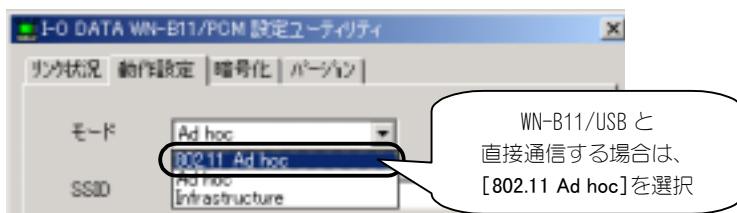
通信モード	設定内容
Ad hoc	アクセスポイント（弊社製WN-B11/AXP等）と通信しない場合のモード （本製品などの無線LANアダプタのみで構成するネットワーク）
Infrastructure	アクセスポイントと通信する場合のモード



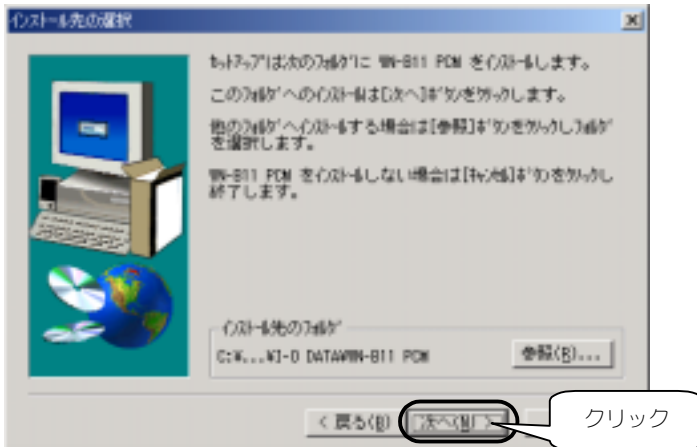
## 注意！

弊社製 USB 無線 LAN アダプタ「WN-B11/USB」と通信する場合、ここでの設定は、  
[Ad hoc]を選択しますが、手順 23 までのインストール作業がすべて終了した後に、  
設定ユーティリティで[通信モード]を[802.11 Ad hoc]に変更してください。  
（無線 LAN アダプタ同士のみでの設定ユーティリティでの[通信モード]の設定は、  
58 ページ以降を参照してください。）

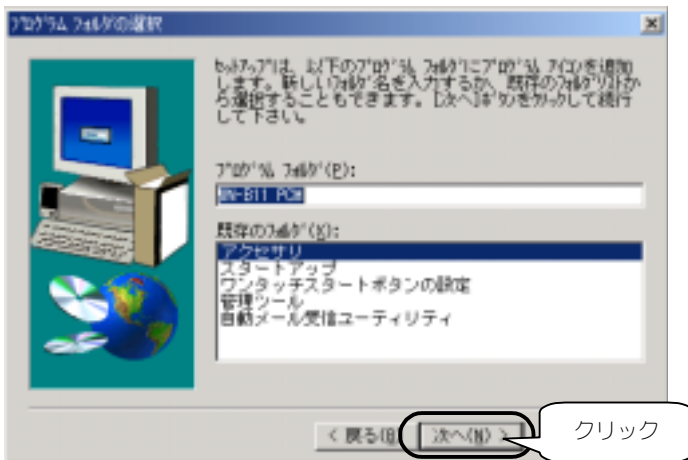
## ●[設定ユーティリティ]画面



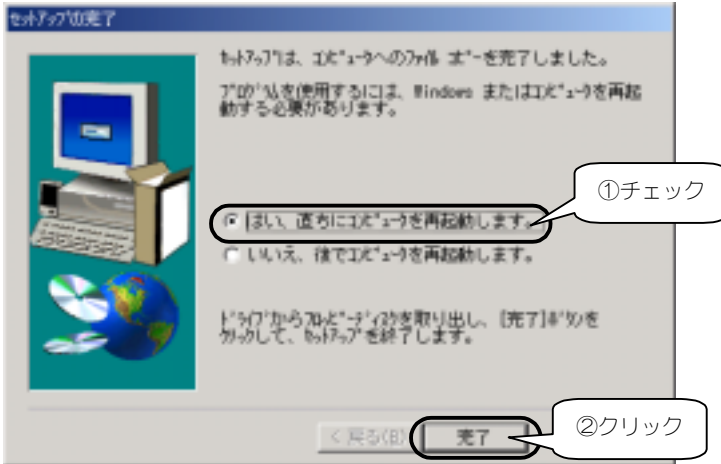
## 19 インストール先のフォルダを設定します。 [次へ]ボタンをクリックします。



## 20 [次へ]ボタンをクリックします。



- 21** インストールが完了すると以下の画面が表示されます。  
[はい、直ちに……]をチェックし、  
[完了]ボタンをクリックしてパソコンを再起動してください。



- 22** パソコン再起動後、  
[スタート]→[設定]→[コントロールパネル]の  
[アプリケーションの追加と削除]を開きます。

## 23

ここまでの手順で不要となった

[WN-B11/PCM セットアップ プログラム]を削除します。

[WN-B11/PCM セットアップ プログラム]をクリック後、

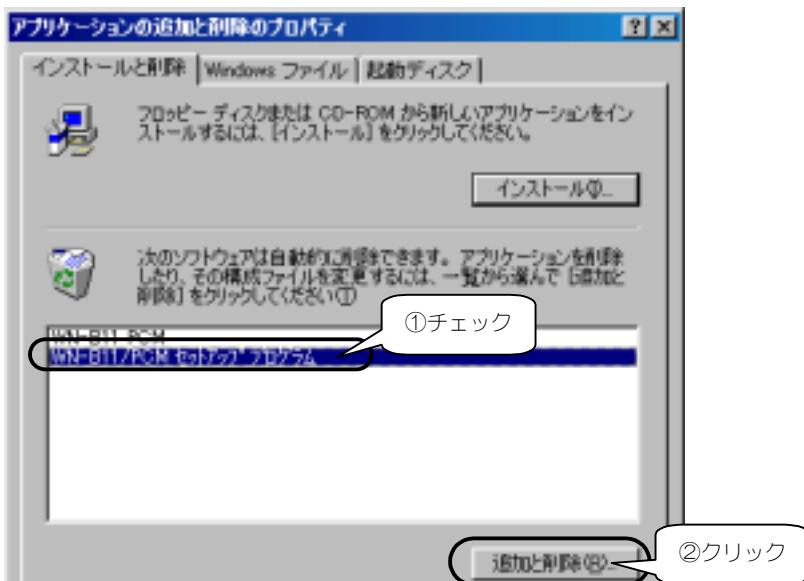
[追加と削除]ボタンをクリックします。

後は、画面の指示にしたがってください。



**注意！**

[WN-B11 PCM]は削除しないでください。



以上で、Windows 2000/Me/98/95へのインストールは終了です。

次に、正常にインストールされたかを確認するために、

【インストール後の確認】(40ページ)へお進みください。

## 2. Windows NT 4.0

ここでは、Windows NT 4.0へのインストール手順について説明します。

### 用意するもの

- ・ 本製品
- ・ 添付の「設定ユーティリティ①」ディスク
- ・ 添付の「設定ユーティリティ②」ディスク
- ・ 添付の「設定ユーティリティ③」ディスク
- ・ Windows NT 4.0のCD-ROM
- ・ Service Pack 4 以降



### 注意！

パソコンにフロッピーディスクドライブが無い場合は、4ページを参照してください。  
次ページ以降では、「設定ユーティリティ」ディスクの挿入は不要となります。  
また、27 ページの手順 3 では、展開したフォルダ内の[Setup.exe]を起動してください。

## インストール



**注意！**

挿入の指示があるまで、まだ本製品を PC カードスロットに挿入しないでください。



《カードを挿したまま、パソコンを起動してしまった場合…》

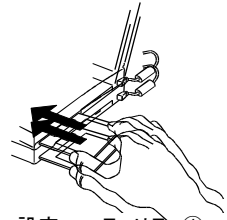
万一、カードを挿したままパソコンを起動した場合は、Windows NT 4.0 を終了し、パソコンの電源を切った後、本製品を取り外してください。

# 1 Windows NT 4.0を起動します。

**注意！**

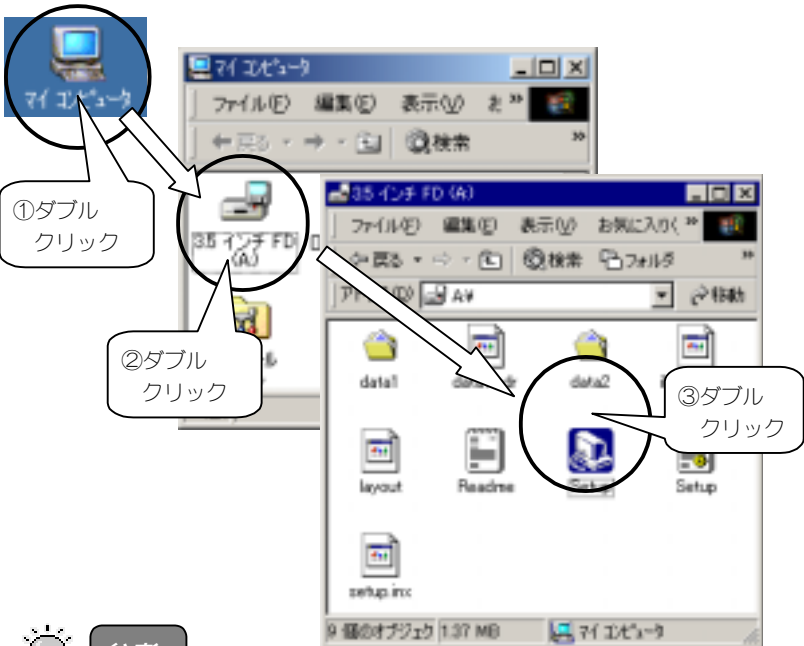
Administrator 権限を持ったユーザーでログインしてください。

# 2 「設定ユーティリティ①」ディスクを フロッピーディスクドライブにセットします。



設定ユーティリティ①

# 3 [マイコンピュータ]→[3.5インチFD]→[Setup]を 順にダブルクリックします。

**参考**

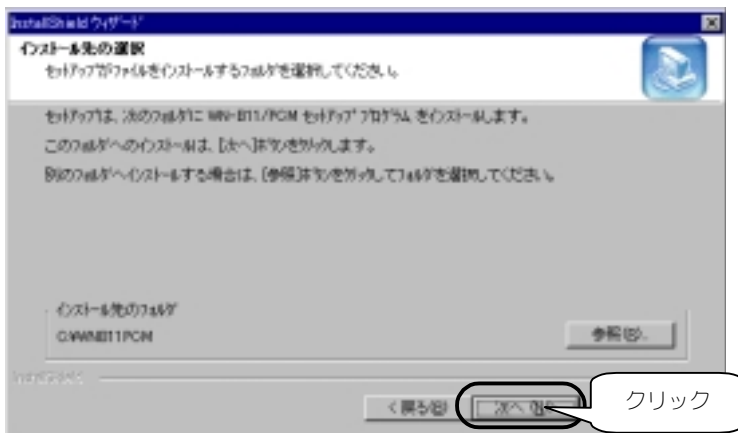
お使いの環境によっては、[Setup]と表示されずに、[Setup.exe]と表示される場合があります。



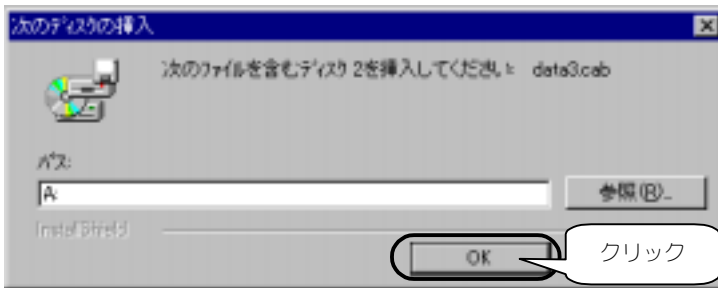
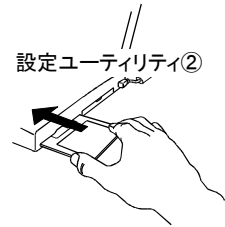
- 4** 以下のインストール画面が表示されます。  
[次へ]ボタンをクリックします。



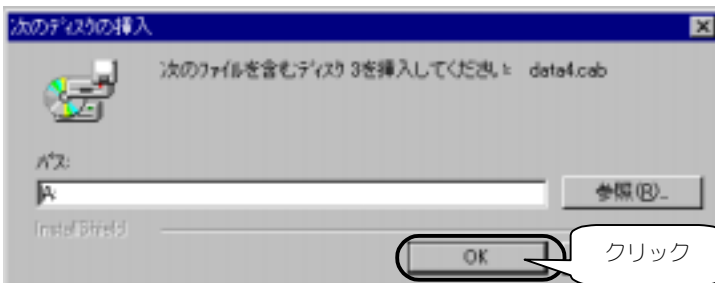
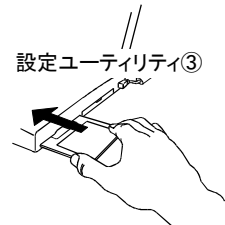
- 5** インストール先を指定する画面が表示されます。  
[次へ]ボタンをクリックします。



- 6 以下の画面が表示されたら、フロッピーディスクドライブのアクセスランプが消えていることを確認後、ディスクを「設定ユーティリティ②」ディスクに入れ替えて、[OK]ボタンをクリックします。

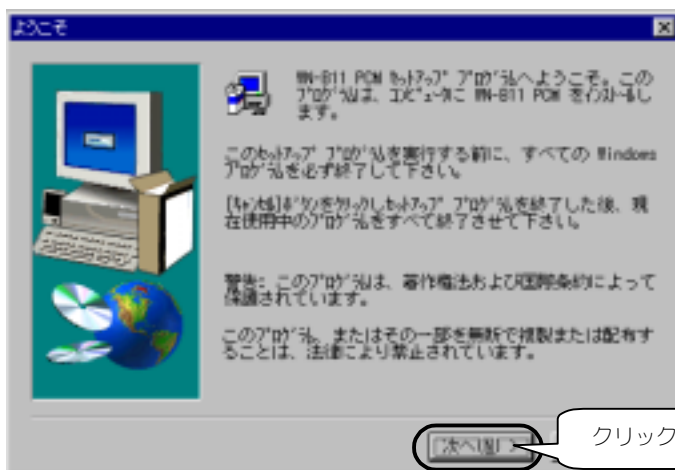
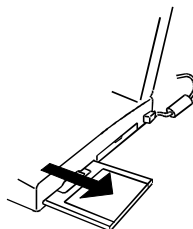


- 7 以下の画面が表示されたら、フロッピーディスクドライブのアクセスランプが消えていることを確認後、ディスクを「設定ユーティリティ③」ディスクに入れ替えて、[OK]ボタンをクリックします。



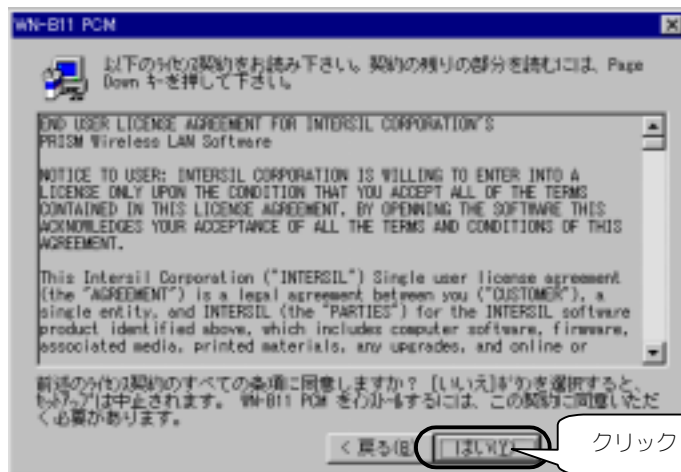
8

以下の画面が表示された場合は、フロッピーディスクドライブのアクセスランプが消えていることを確認後、ディスクを取り出し、[次へ]ボタンをクリックします。

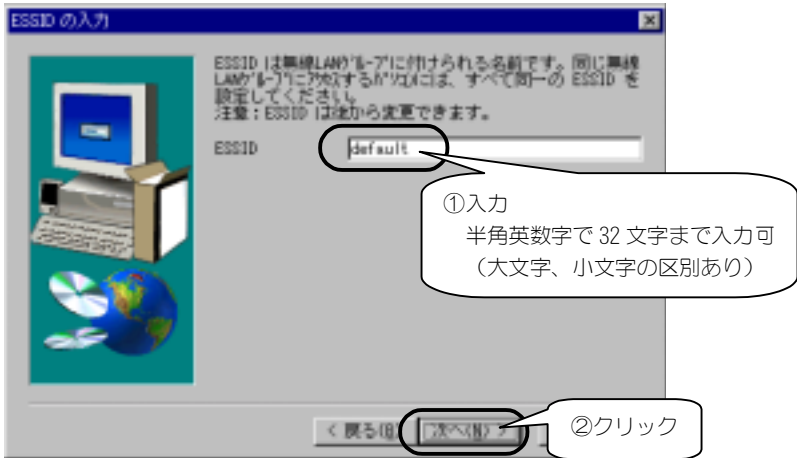


9

内容を確認し、同意するなら[はい]ボタンをクリックします。



- 10** [ESS ID]を設定し、[次へ]ボタンをクリックします。  
 アクセスポイント(弊社製WN-B11/AXP等)と通信する場合は、  
 アクセスポイントの[SS ID](または[ESS ID])を入力してください。  
 アクセスポイントと通信しない場合は、初期値[default]以外の  
 値を入力してください。(他の通信する機器も同じ値に設定す  
 する必要があります。)



### 注意！

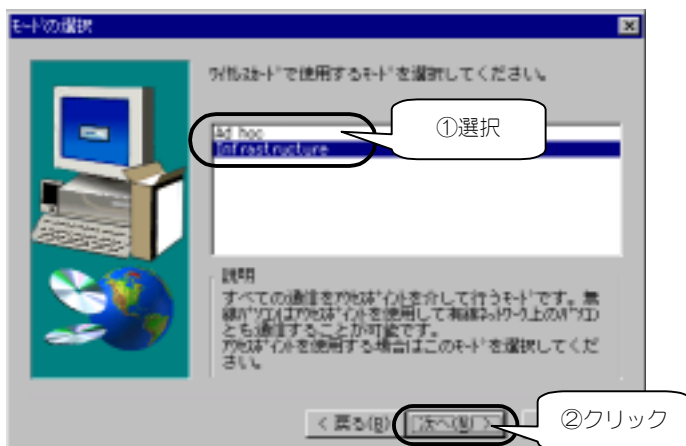
- ・本製品を含め、同一のアクセスポイントと通信する無線 LAN アダプタ製品は、すべて同じ ESS ID にする必要があります。
- ・ESS ID は半角英数字で 32 文字まで入力できます。(大文字、小文字の区別もあります。)
- ・ESS ID およびチャンネルの値が他の無線 LAN と重なると、他の無線 LAN に通信の内容が流れる、あるいは、他の無線 LAN の通信が来てしまいます。  
 そのために起こったトラブルに対しては弊社は一切責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。



### 参考

- ・ESS ID とは、本製品とアクセスポイントの通信時に使用する識別用の ID です。  
 アクセスポイント単位に割り当てられるため、同一のアクセスポイントに通信する無線 LAN 製品は、同じ ID にする必要があります。  
 無線 LAN 製品によっては、SS ID と記載されている場合もあります。
- ・アクセスポイント使用時の通信チャンネルはアクセスポイントの通信チャンネルが使用されます。

- 11** 通信モードを選択します。  
 選択後、[次へ]ボタンをクリックします。



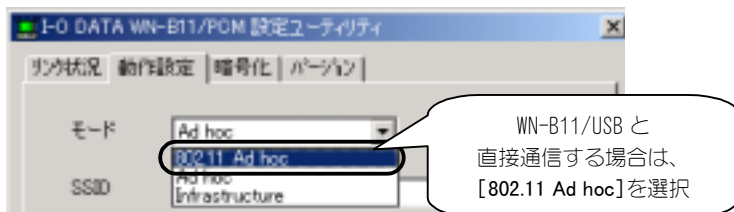
通信モード	設定内容
Ad hoc	アクセスポイント（弊社製WN-B11/AXP等）と通信しない場合のモード （本製品などの無線LANアダプタのみで構成するネットワーク）
Infrastructure	アクセスポイントと通信する場合のモード



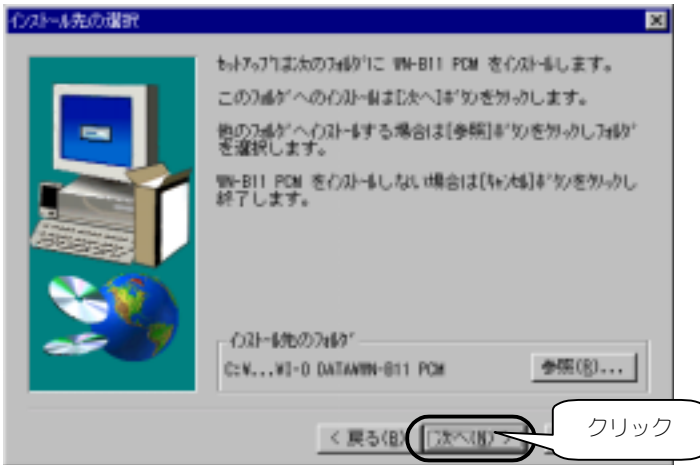
### 注意！

弊社製 USB 無線 LAN アダプタ「WN-B11/USB」と通信する場合、ここでの設定は、  
 [Ad hoc]を選択しますが、手順3のまでのインストール作業がすべて終了した後に、  
 設定ユーティリティの[通信モード]を[802.11 Ad hoc]に変更してください。  
 （無線 LAN アダプタ同士だけの設定ユーティリティでの[通信モード]の設定は、  
 58 ページ以降を参照してください。）

### ●[設定ユーティリティ]画面



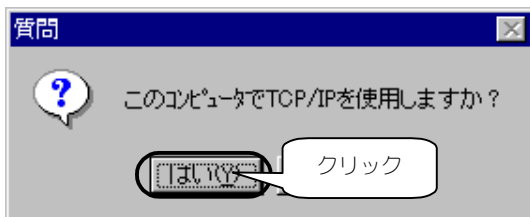
## 12 インストール先のフォルダを設定します。 [次へ]ボタンをクリックします。



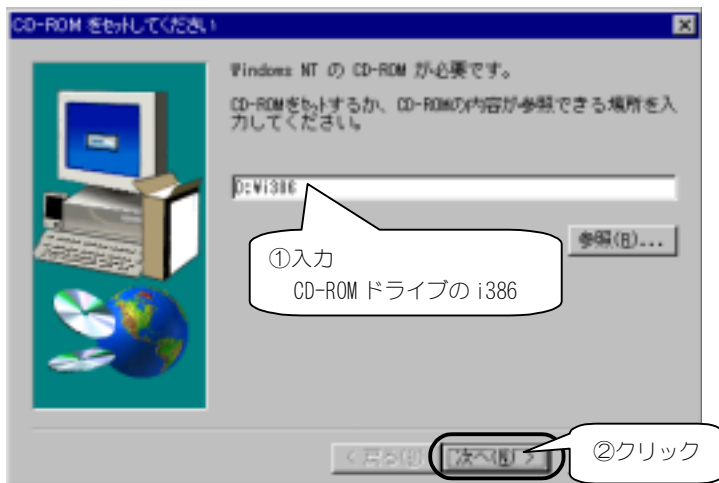
## 13 [次へ]ボタンをクリックします。



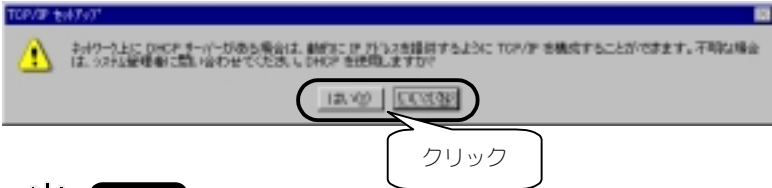
- 14** 以前にネットワークの設定で[TCP/IP]を設定していない場合は、以下の画面が表示されますので、  
[はい]ボタンをクリックしてください。  
以前に[TCP/IP]を設定していた場合は、以下の画面は表示されません。その場合は、手順 **17** へお進みください。



- 15** 以下の画面が表示された場合は、  
「Windows NT 4.0」CD-ROMをCD-ROMドライブに挿入し、  
CD-ROMドライブの i386 フォルダを指定し  
(以下の画面例は、CD-ROMドライブがDドライブの場合)、  
[次へ]ボタンをクリックします。



- 16** 以下の画面が表示された場合は、ネットワーク上(アクセスポイントで接続されているネットワークも含む)で DHCPサーバを使用しているなら[はい]ボタンを、DHCPサーバを使用していないなら[いいえ]ボタンをクリックしてください。



### 注意！

クリック後、[TCP/IP のプロパティ]画面が表示された場合は、ネットワーク管理者に設定を確認してください。

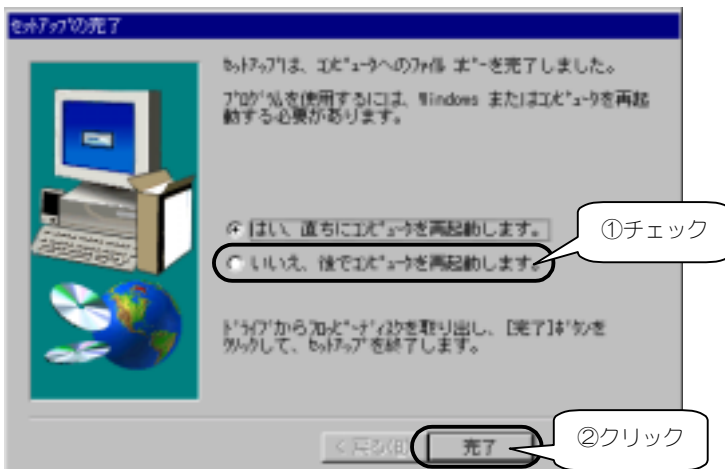


### 参考

DHCP サーバとは...

ネットワーク上に存在する Ethernet 機器へ自動的に IP アドレスを割り当てるサーバです。ダイアルアップルータ等の機器が DHCP サーバの機能を持っています。DHCP サーバがネットワーク上に存在しない場合は IP アドレスを手動で設定する必要があります。

- 17** インストールが完了すると以下の画面が表示されます。  
[いいえ、後でコンピュータ...]をチェックし、  
[完了]ボタンをクリックしてください。





**18** この後の手順は、お使いのパソコンのネットワーク設定により異なります。

- ・すでにネットワークを設定している場合

手順 **26** (38ページ) へお進みください。

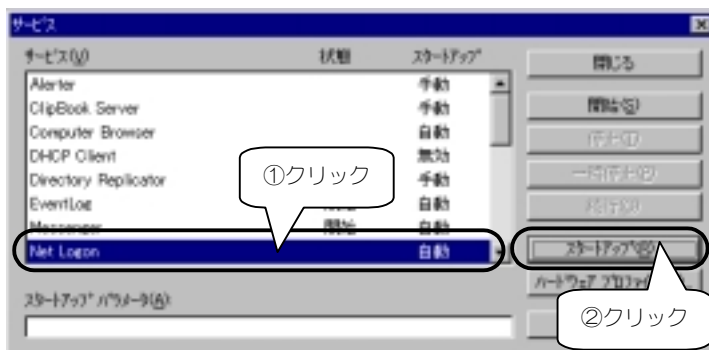
- ・以前にネットワークを設定していない場合

以下の手順 **19** へお進みください。

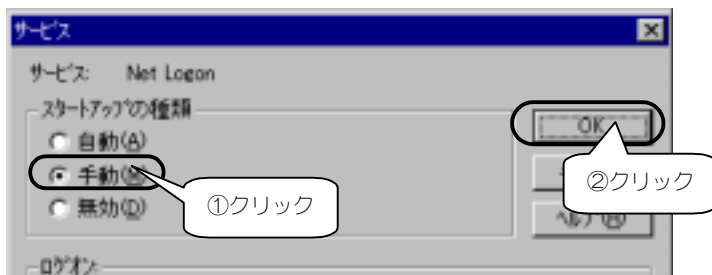
**19** [スタート]→[コントロールパネル]の  
[サービス]アイコンを  
ダブルクリックします。



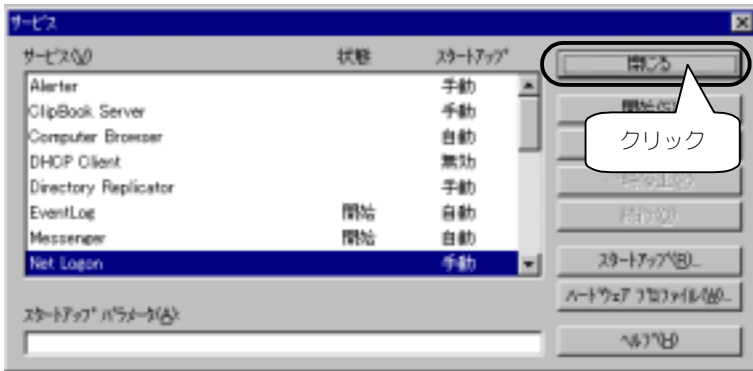
**20** [Net Logon]をクリックして、  
[スタートアップ]ボタンをクリックします。



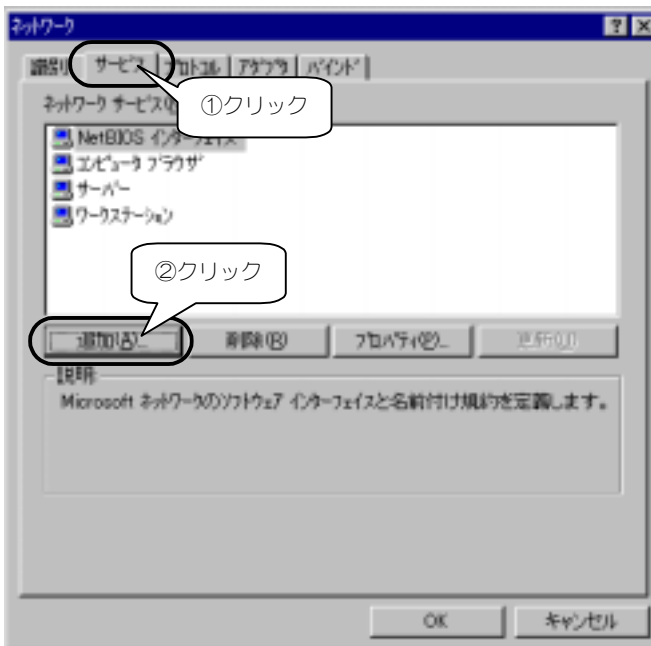
**21** [手動]をチェックして、  
[OK]ボタンをクリックします。



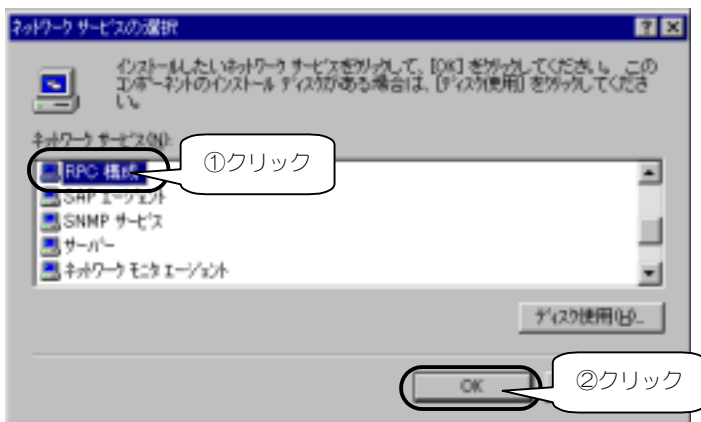
## 22 [閉じる]ボタンをクリックします。



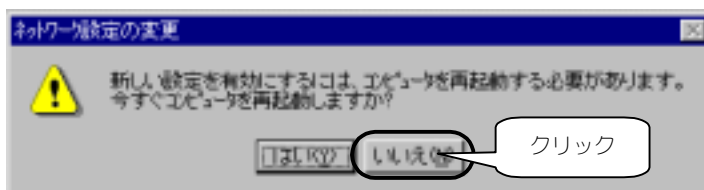
## 23 [ネットワーク]アイコンをダブルクリックし、 [サービス]タブで[追加]ボタンをクリックします。



**24** [RPC構成]をクリック後、[OK]ボタンをクリックします。



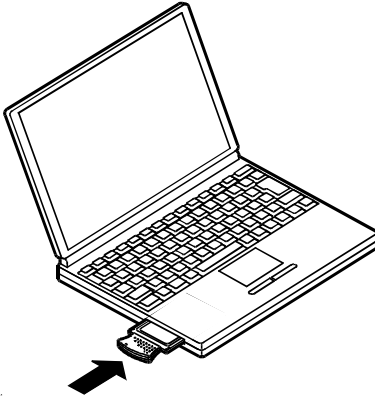
**25** [いいえ]ボタンをクリックします。



**26** 再度、サービスパックをインストールし直します。

**27** パソコンの電源を切ります。

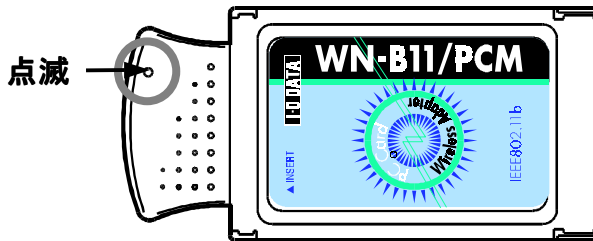
- 28** 本製品のラベル面を上にして、  
PCカードスロットの奥まで挿入します。



PC カードスロットの位置は、  
お使いのパソコンによって  
異なります。  
パソコンの取扱説明書を参照  
してください。

- 29** パソコンの電源を入れ、Windows NT 4.0を起動します。

- 30** 本製品の[LINK]ランプが点滅していることを確認します。



【LINK】ランプが  
点滅しない場合は…

【困ったときには】の P92  
をご参照ください。

以上で、Windows NT 4.0へのインストールは終了です。  
次に、正常にインストールされたかを確認するために、  
【インストール後の確認】(次ページ)へお進みください。

### 3. インストール後の確認

ここでは本製品が、Windowsで正常に認識されているかどうかの確認方法を説明します。インストール終了（再起動）後、必ず以下の事を確認してください。

- ・Windows 2000の場合 ⇒ 以下の【Windows 2000での確認】参照
- ・Windows Me/98/95の場合 ⇒ 43ページ【Windows Me/98/95での確認】参照
- ・Windows NT 4.0の場合 ⇒ 47ページ【Windows NT 4.0での確認】参照

#### Windows 2000での確認

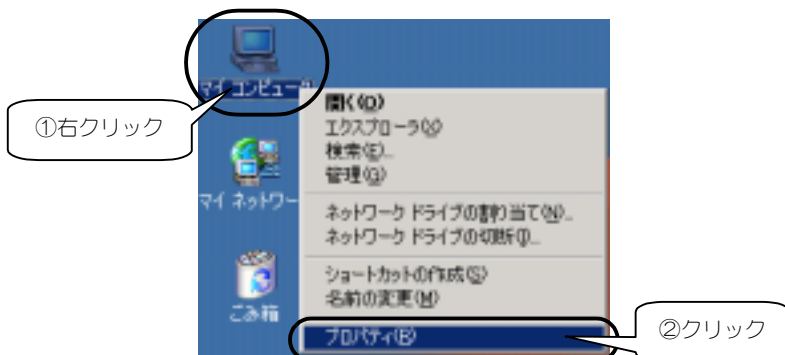
ここでは、Windows 2000での確認方法を説明します。



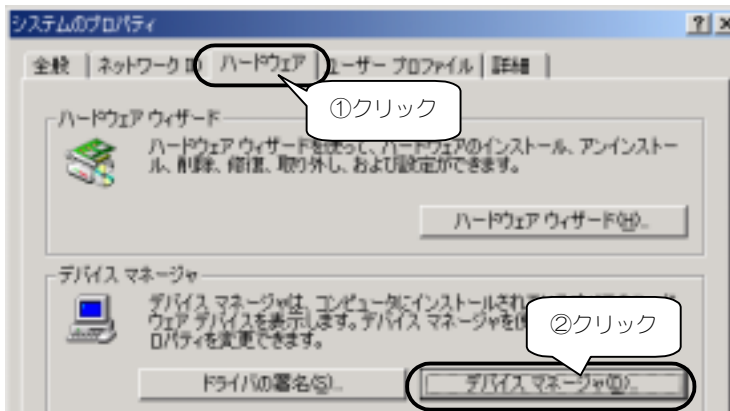
**確認:[デバイスマネージャ]に本製品が正常に登録されているか確認しましょう**

設定ユーティリティが正常にインストールされたかを確認するために、以下の手順で、[デバイスマネージャ]に本製品が登録されているかを確認します。

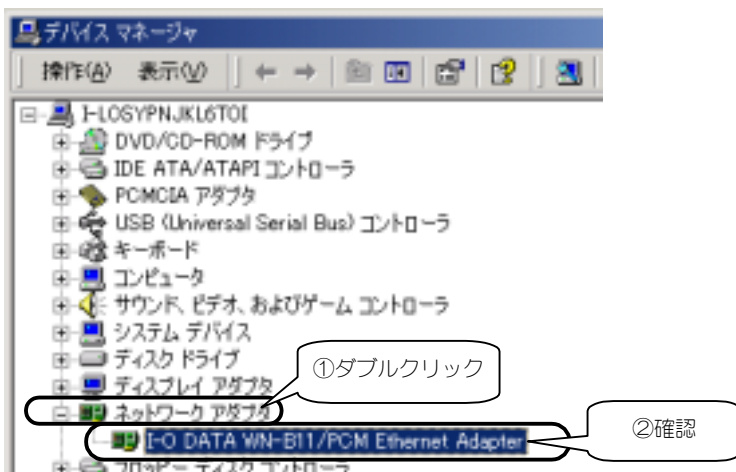
- 1 [マイコンピュータ]を右クリックし、  
[プロパティ]をクリックします。



- 2** [ハードウェア]タブをクリックして、  
[デバイスマネージャ]ボタンをクリックします。

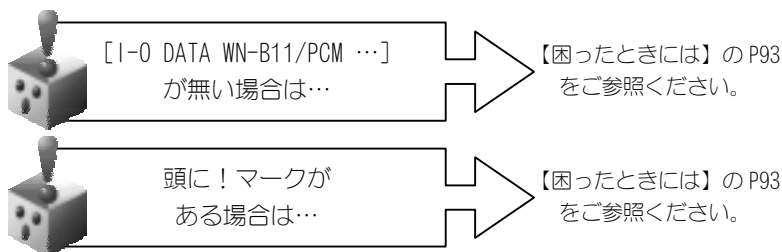


- 3** [ネットワークアダプタ]をダブルクリックします。
- ・[ネットワークアダプタ]の下に  
[I-O DATA WN-B11/PCM Ethernet Adapter]と表示されているかを確認します。
  - ・その頭に！マークが表示されていないことも確認します。



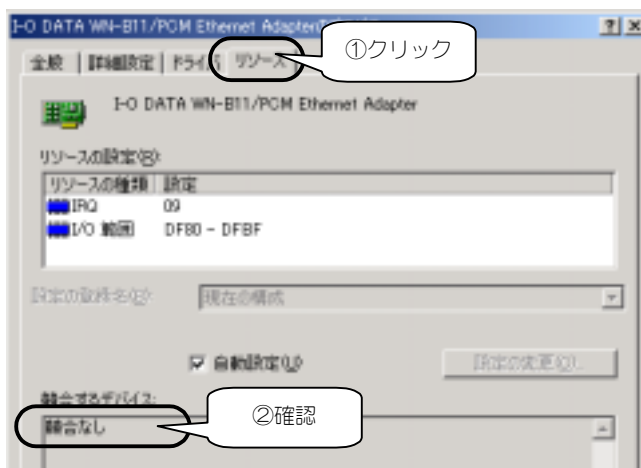
### 3. インストール後の確認

---



#### 4 [I-O DATA WN-B11/PCM Ethernet Adapter]をダブルクリックし、[リソース]タブをクリックします。

・デバイスが競合していないことを確認してください。



正常に表示されていれば、Windows 2000で本製品が使用できます。  
次に【本製品を設定する】(51ページ)へお進みください。

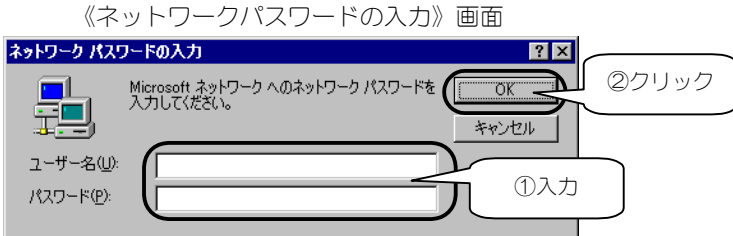
## Windows Me/98/95での確認

ここでは、Windows Me/98/95での確認方法を説明します。

インストール後、パソコンを再起動した後、以下の点をご確認ください。



**確認①:** Windows起動途中で、[ネットワークパスワードの入力]画面が表示されるか確認しましょう



インストール後、パソコンを再起動すると起動途中で上記の画面が表示されますので、ユーザー名とパスワードを入力して[OK]ボタンをクリックしてください。

[キャンセル] ボタンをクリックすると、ネットワークにログインできません。



### 参考

**[ユーザー名]と[パスワード]について・・・**

- ・ネットワーク上にサーバーがある場合

サーバーの管理者にご確認ください。間違った場合は、ネットワークにログインできません。

- ・ネットワーク上にサーバーがない場合

[ユーザー名]には、ネットワーク上で固有な名称(他のパソコンと重複しない名称)を入力してください。(入力した値は、忘れないようにしてください。)

[パスワード]は特に入力する必要はありません。



画面が表示  
されない場合は…



【困ったときには】のP101  
をご参照ください。



### 3. インストール後の確認



**確認②:** デスクトップ上に[マイネットワーク] (Windows Meの場合)  
または[ネットワークコンピュータ] (Windows 98/95の場合)  
のアイコンが表示されるか確認しましょう



[マイネットワーク]  
アイコン  
(Windows Me)



[ネットワークコンピュータ]  
アイコン  
(Windows 98/95)



アイコンが  
表示されない場合は…

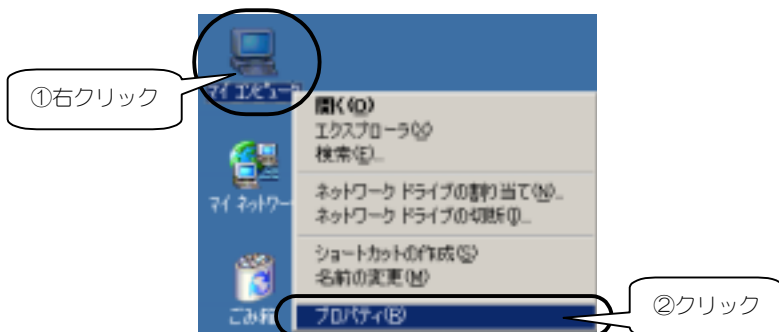
【困ったときには】のP102  
をご参照ください。



**確認③:** [デバイスマネージャ]に本製品が正常に登録されて  
いるか確認しましょう

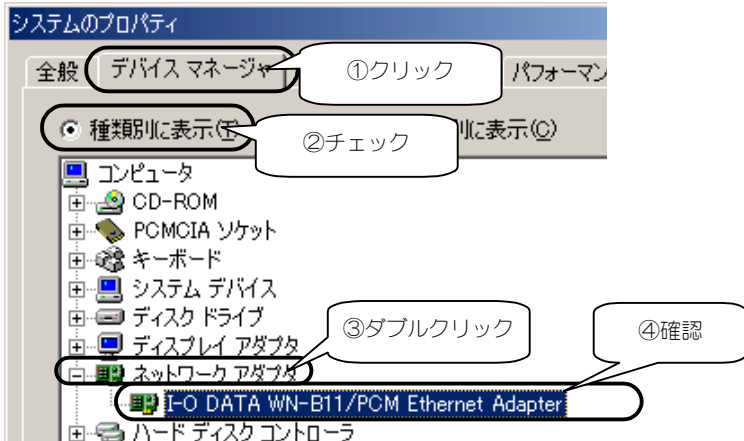
設定ユーティリティが正常にインストールされたかを確認するために、  
以下の手順で、[デバイスマネージャ] に本製品が登録されているかを  
確認します。

**1** [マイコンピュータ]を右クリックし、[プロパティ]をクリックします。



## 2 [デバイスマネージャ]タブをクリックし、[種類別に表示]で [ネットワークアダプタ]をダブルクリックします。

- ・[ネットワークアダプタ]の下に  
[I-O DATA WN-B11/PCM Ethernet Adapter]と表示されていることを確認します。
- ・その頭に！マークが表示されていないことも確認します。



「I-O DATA WN-B11/PCM ...」  
が無い場合は…

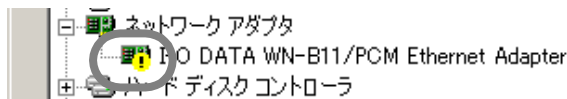
【困ったときには】の P93  
をご参照ください。



頭に！マークが  
ある場合は…

【困ったときには】の P93  
をご参照ください。

《頭に！マークがある例》





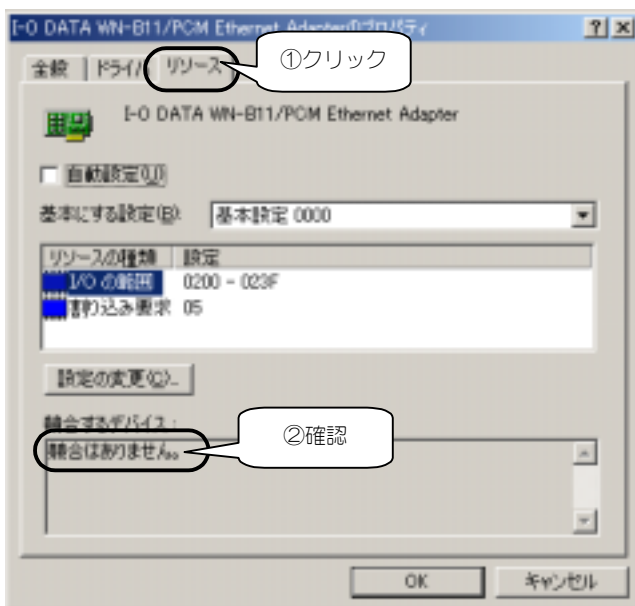
#### 参考

PC98-NX シリーズで[デバイスマネージャ]が表示されない場合は、以下の手順で[アドバンスドモード]に設定してください。

- 1.[スタート]→[プログラム]→[Cyber Trio-NX](あるいは[NX ユーティリティ]、[NX の設定])→[Cyber-Trio-NX セットアップ]を順に起動します。
  - 2.[アドバンスドモード]をチェックし、[OK]ボタンをクリックします。
  - 3.Windows を再起動します。
- 再起動後、再度、44 ページの手順 1 から行ってみてください。

### 3 [I-O DATA WN-B11/PCM Ethernet Adapter]をダブルクリックし、[リソース]タブをクリックします。

・デバイスが競合していないことを確認してください。



正常に表示されていれば、Windows Me/98/95で本製品が使用できます。次に【本製品を設定する】(51ページ)へお進みください。

## Windows NT 4.0での確認

ここでは、Windows NT 4.0での確認方法を説明します。

インストール後、パソコンを再起動した後、以下の点をご確認ください。



**確認①:** Windows起動時に以下のようなエラー画面が表示されないか確認しましょう

エラー画面



起動時に上記のようなエラーが表示されない事を確認してください。



上記のエラーが  
表示された場合は…

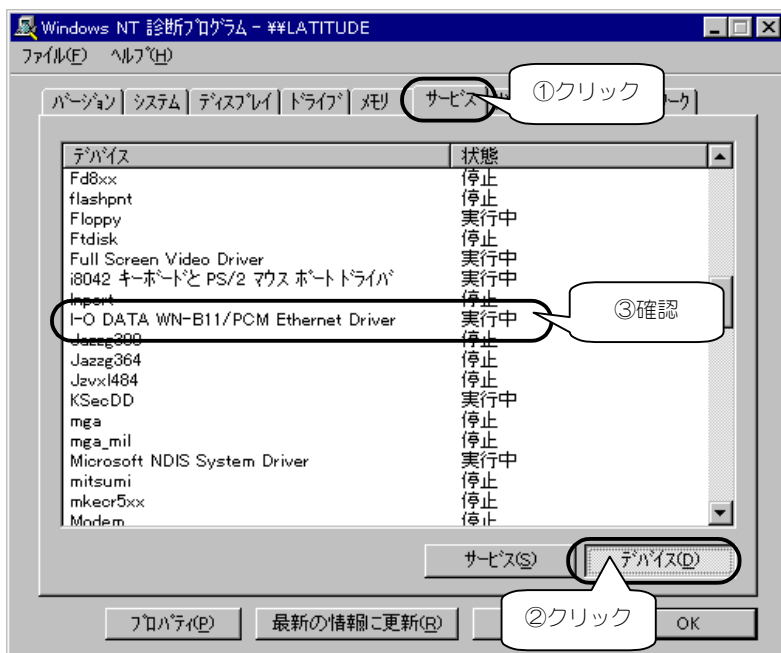


【困ったときには】のP104  
をご参照ください。

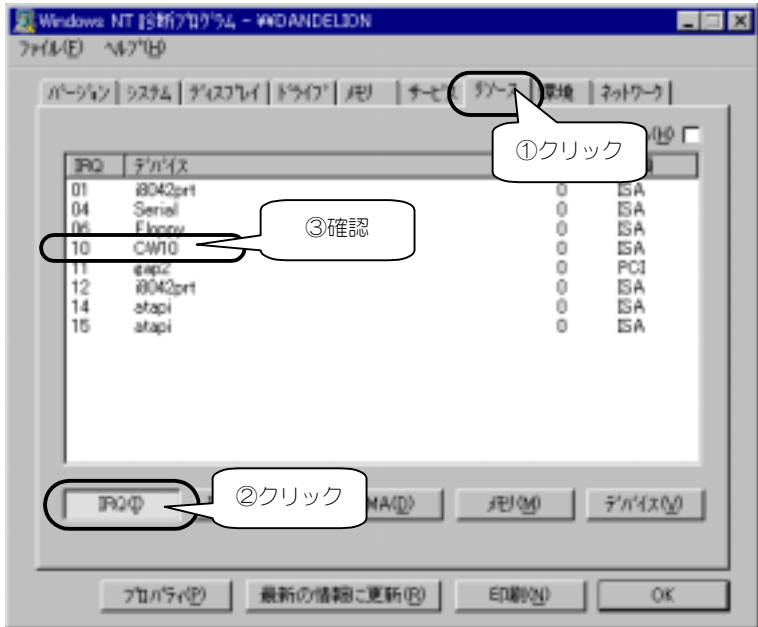


確認②: [Windows NT診断プログラム]に本製品が正常に表示されているか確認しましょう

- 1 [スタート]→[プログラム]→[管理ツール]をクリックし、  
[Windows NT診断プログラム]アイコンをダブルクリックします。
- 2 [サービス]タブの[デバイス]ボタンをクリックします。
  - ・[I-O DATA WN-B11/PCM Ethernet Driver]と表示されているか確認してください。
  - ・[状態]が[実行中]であることを確認してください。



- 3** [リソース]タブの[IRQ]ボタンをクリックします  
・[デバイス]欄に[CW10]と表示されているか確認してください。



#### 参考

正常にリソースの割り当てがされない場合は、パソコン本体の BIOS にて PnP (PnP/PS) を無効 (Disable または NO 等) に設定し、お試しください。

- 4 [リソース]タブの[I/Oポート]ボタンをクリックします。  
・[デバイス]欄に[CW10]と表示されているか確認してください。



#### 参考

正常にリソースの割り当てがされない場合は、パソコン本体の BIOS にて PnP (PnP/PS) を無効 (Disable または NO 等) に設定し、お試しください。

正常に表示されていれば、Windows NT 4.0で本製品が使用できます。次に【本製品を設定する】(51ページ)へお進みください。

## 第3章

# 本製品を設定する

他の無線LAN製品と通信するためには、本製品の設定が必要です。

この章では、添付のユーティリティを使用して、本製品を設定する方法について説明します。

### 本製品の設定

52ページ

添付のユーティリティで無線LANの設定を行います。

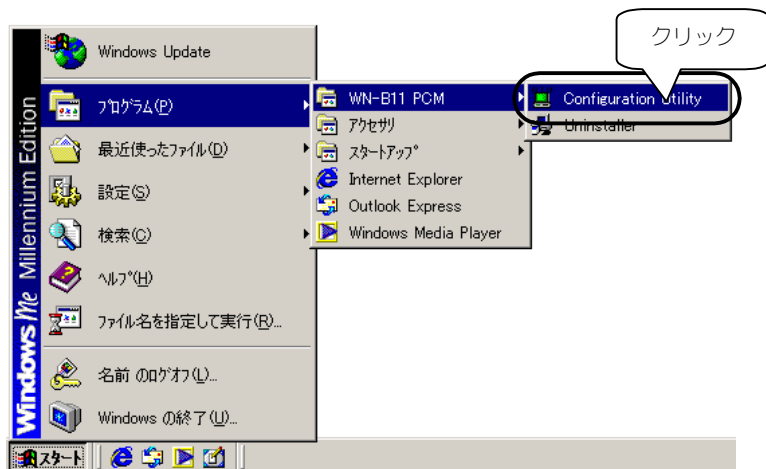


# 本製品の設定

ここでは、ご使用のネットワークに応じた無線LANの設定について説明します。  
設定は、インストールしたユーティリティで行います。

## ユーティリティの起動

- 1 ユーティリティを起動します。  
[スタート]→[プログラム]→[WN-B11 PCM]→[Configuration Utility]を順にクリックします。



### 参考

画面右下のタスクトレイのアイコンを左クリックすることでも起動することができます。  
(右クリックするとユーティリティの常駐を終了します。)



## ユーティリティによる設定

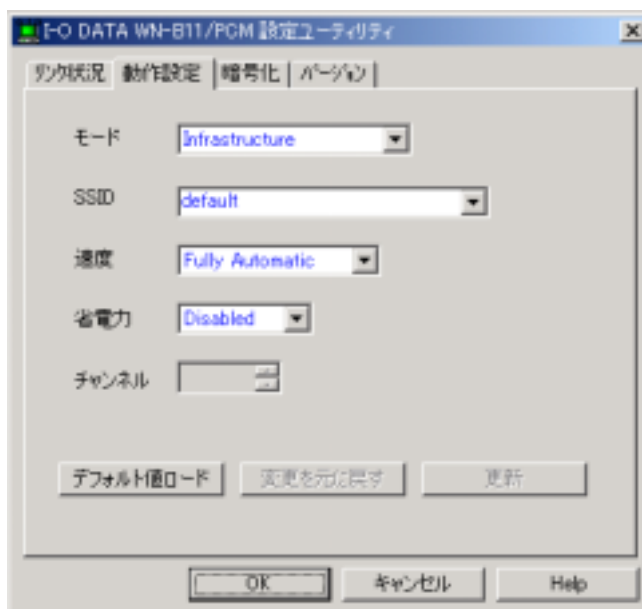
ユーティリティを使って、無線LANの設定を行います。

ユーティリティでは、以下のことが行えます。

タブ名	内容	参照ページ
リンク状況	通信状態を表示します。 実際に通信が正常に行われているか確認することができます。	107
動作設定	無線LANの設定を行うことができます。	次ページ以降
暗号化	通信の暗号化の設定を行うことができます。	73
バージョン	本ユーティリティの説明です。	113

ここでは、通信する前に必要な設定（〔動作設定〕タブでの設定）についてのみ説明します。

その他詳細については、【ユーティリティについて】(105ページ)を参照してください。



- 1** 各設定を行います。  
各設定をすべて終了した後は、  
[更新]ボタン、続けて[OK]ボタンをクリックしてください。

項目	設定内容												
モード	<p>通信モードの設定です。</p> <p>[Infrastructure]: (初期値) アクセスポイント（弊社製WN-B11/AXP等）と通信する場合に選択します。</p> <p>[Ad hoc]: アクセスポイントと通信しない場合で、本製品同士のみで構成するネットワークで使用する場合に選択します。</p> <p>[802.11 Ad hoc]: アクセスポイントと通信しない場合で、弊社製USB無線LANアダプタ「WN-B11/USB」とともに構成するネットワークで使用する場合に選択します。</p>												
SS ID	<p>アクセスポイント（弊社製WN-B11/AXP等）と通信する場合は、アクセスポイントの [SS ID] を入力してください。 半角英数字で32文字まで入力できます。（大文字、小文字の区別もあります。）</p> <p>アクセスポイントと通信しない場合は、初期値 [default] 以外の値を入力してください。（他の通信する機器も同じ値に設定する必要があります。）</p>												
速度	<p>接続時の通信速度です。 以下より選択できます。</p> <table><tr><td>[Fully Automatic] (初期値)</td><td>通信可能な最高速度で通信します。 (最高11Mbps)</td></tr><tr><td>[1 Mb]</td><td>1Mbpsで通信します。</td></tr><tr><td>[2 Mb]</td><td>2Mbpsで通信します。</td></tr><tr><td>[Auto 1 or 2 Mb]</td><td>2Mbpsあるいは1Mbpsの通信可能な速度で通信します。</td></tr><tr><td>[5.5 Mb]</td><td>5.5Mbpsで通信します。</td></tr><tr><td>[11 Mb]</td><td>11Mbpsで通信します。</td></tr></table> <p>※電波状態により自動的に設定した速度よりも低速に落ちることもあります。</p>	[Fully Automatic] (初期値)	通信可能な最高速度で通信します。 (最高11Mbps)	[1 Mb]	1Mbpsで通信します。	[2 Mb]	2Mbpsで通信します。	[Auto 1 or 2 Mb]	2Mbpsあるいは1Mbpsの通信可能な速度で通信します。	[5.5 Mb]	5.5Mbpsで通信します。	[11 Mb]	11Mbpsで通信します。
[Fully Automatic] (初期値)	通信可能な最高速度で通信します。 (最高11Mbps)												
[1 Mb]	1Mbpsで通信します。												
[2 Mb]	2Mbpsで通信します。												
[Auto 1 or 2 Mb]	2Mbpsあるいは1Mbpsの通信可能な速度で通信します。												
[5.5 Mb]	5.5Mbpsで通信します。												
[11 Mb]	11Mbpsで通信します。												

省電力	<p>本製品自体のパワーセーブ（PS：PowerSaving）モード 〔省電力モード〕の設定です。</p> <p>現在是对应しておりませんので、<u>〔Disable〕のままご利用ください。</u></p> <p>〔Disable〕： パワーセーブは行いません。</p> <p>〔Enable〕： パワーセーブを行います。（現在、未対応）</p> <p>パワーセーブモードでは、通信していない場合に自動的に休止状態となり、通信を開始すると動作を再開します。</p>
チャンネル	<p>通信チャンネル（使用する電波の周波数帯域に番号を割り当てたもの）の設定を行います。</p> <p>※〔モード〕を〔Ad hoc〕または〔802.11 Ad hoc〕に設定している場合にのみ設定できます。</p> <p>同一の無線LANではすべて同じ値に設定してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・無線LANが1つしかない場合は、初期値のまま変更する必要はありません。</li> <li>・複数の無線LANがある場合にのみ、それぞれのネットワークで別々の通信チャンネルの値を設定してください。（電波の干渉を防ぐためらチャンネル間隔を空けることをおすすめします。）</li> </ul> <p>設定値： 1～14</p>



### 注意！

- ・本製品を含め、同一のアクセスポイントと通信する無線 LAN 製品は、すべて同じ SS ID にする必要があります。
- ・SS ID は半角英数字で 32 文字まで入力できます。（大文字、小文字の区別もあります。）
- ・SS ID およびチャンネルの値が他の無線 LAN と重なると、他の無線 LAN に通信の内容が流れる、あるいは他の無線 LAN の通信が来てしまいます。  
そのために起こったトラブルに対しては弊社は一切責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- ・Windows 2000 にて本製品を使用する場合は、Administrator 権限を持ったユーザーでログインしてご使用ください。



参考

- ・SS ID とは、本製品とアクセスポイントの通信時に使用する識別用の ID です。  
アクセスポイント単位に割り当てるため、同一のアクセスポイントに通信する無線ネットワーク製品は、同じ ID にする必要があります。  
無線 LAN 製品によっては、ESS ID と記載されている場合もあります。
- ・アクセスポイント使用時の通信チャンネルは、アクセスポイントの通信チャンネルが使用されます。

以上でユーティリティによる本製品の設定は終了です。  
次に【第4章 使ってみる】(次ページ)を参照して、実際に無線LAN製品と通信してみてください。

## 第4章

# 使ってみる

この章では、実際に本製品を使って通信する方法について説明します。

### 無線LANアダプタ同士だけで通信するには

58ページ

無線LANアダプタ同士（本製品同士を含む）で通信する際（[Ad hoc] モードまたは[802.11 Ad hoc] モード）の設定について説明します。

### 通信を暗号化するには

73ページ

通信時の暗号化の方法について説明します。

### アクセスポイントと通信するには

78ページ

既存のLANケーブルで接続されているネットワーク（有線LAN）と接続するためのアクセスポイントとの通信（[Infrastructure] モード）について説明します。

### インターネットにアクセスするには

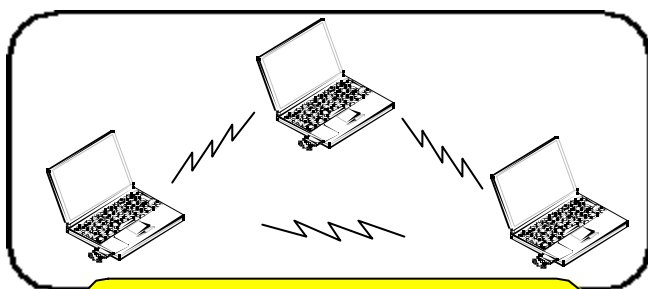
82ページ

無線LANからインターネットを利用する方法について説明します。

# 無線LANアダプタ同士だけで 通信するには

ここでは、無線LANアダプタ同士（本製品同士を含む）で通信する場合（[Ad hoc] モードまたは [802.11 Ad hoc] モード）での手順について説明します。無線LANアダプタ同士で通信する場合、必要なプロトコルを設定し、ワークグループ名を同一にする必要があります。

ここでは、必要なプロトコルと、ワークグループ名の設定と、また、互いのパソコン（のフォルダ）にアクセスするための共有の設定についても説明します。



## すべてのパソコンで必要な設定

- ・プロトコルを設定する
- ・ワークグループ名を同一にする
- ・共有を設定する



## 注意！

複数の無線LAN がある場合は、それぞれのネットワークで別々の通信チャンネルの値（ユーティリティで設定する[チャンネル]の値）を設定してください。（電波の干渉を防ぐため5チャンネル間隔を空けることをおすすめします。）

通信チャンネルの値が他の無線LAN と重なると、他の無線LAN に通信の内容が流れる、あるいは他の無線LAN の通信が来てしまいます。

そのために起こったトラブルに対しては弊社は一切責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

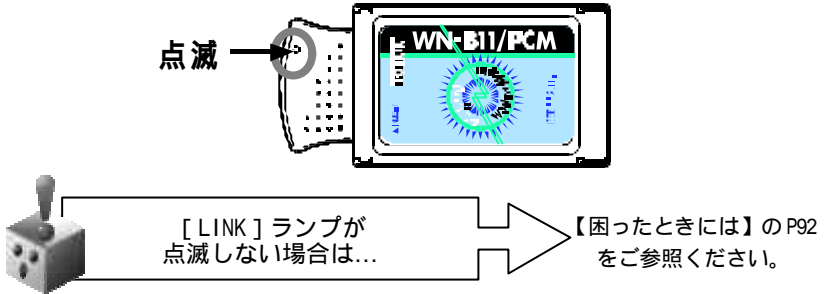


## 参考

共有を設定すれば...

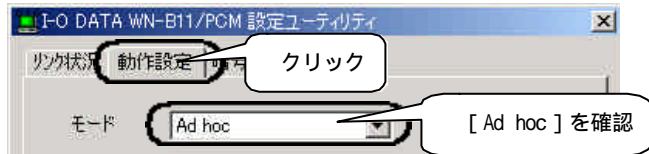
自分のパソコンのドライブやフォルダ等を共有設定すれば、他のワークグループ上のパソコンからアクセスできるようになるため、マウス操作（マウスのドラッグアンドドロップ）で簡単にデータのやりとりができるようになります。

- 1 本製品を装着したすべてのパソコンの電源を入れます。  
本製品の[LINK] ランプが緑色に点滅するかを確認してください。



- 2 ユーティリティを起動します。  
(【ユーティリティの起動】52ページ参照)
- 3 [動作設定] タブで  
[モード] が以下になっていることを確認します。

- ・本製品のみで構成するネットワークの場合  
[モード] が[Ad hoc]となっていることを確認します。



[Ad hoc] モードの場合、[LINK] ランプは点灯します。

- ・弊社製無線LAN USBアダプタ[WN-B11/USB] と直接通信  
する場合

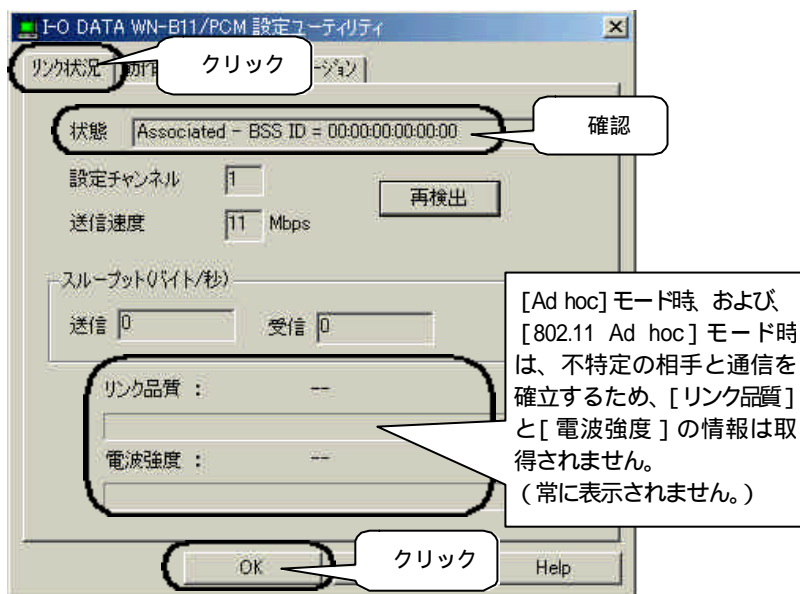
[モード] が[802.11 Ad hoc]となっていることを確認します。



[802.11 Ad hoc] モードの場合、[LINK] ランプは点滅します。



- 4 正常に通信できているかを確認します。  
正常に通信できている場合、[リンク状況] タブで[状態] が  
“Associated ...”と表示されます。  
確認後、[OK] ボタンをクリックして、画面を閉じてください。



[ Associated... ] 以外の  
表示がある場合は...

【困ったときには】の P99  
をご参照ください。

- 5 すべてのパソコンの[プロトコル]と[ワークグループ名]および  
共有の設定を行います。  
以下に該当する個所にお進みください。

- ・Windows 2000の場合の設定      次ページ参照
- ・Windows Me/98/95の場合の設定      67ページ参照



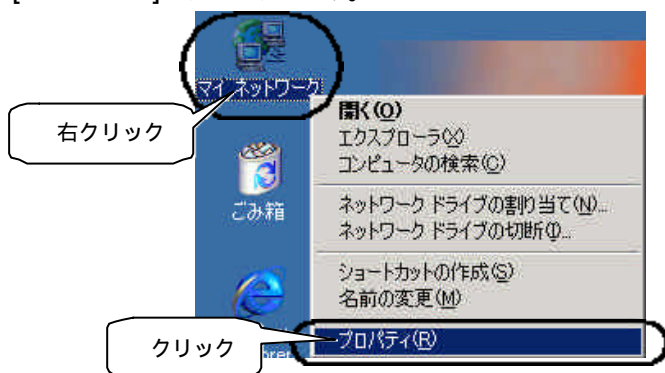
### 注意！

- ・本書では、設定するプロトコルとして[TCP/IP]についてのみ説明します。  
他のプロトコルについては、ネットワーク管理者にご確認ください。
- ・弊社では、本製品が正しく動作し、ファイルやプリンタの共有が確認できるまでをサ  
ポート範囲としております。

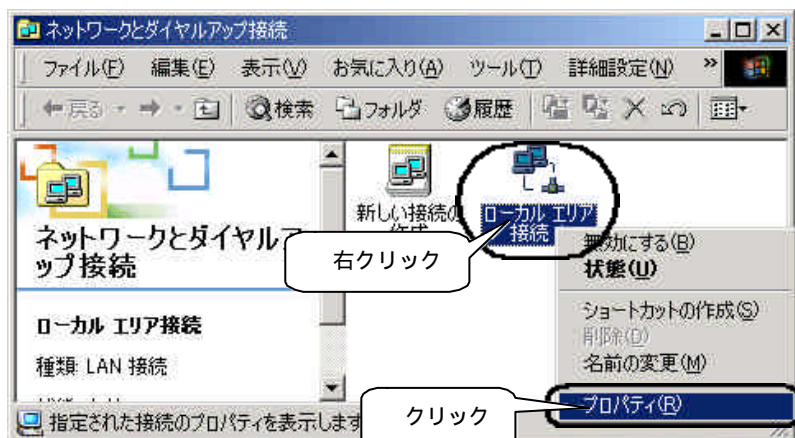
## Windows 2000 の場合の設定

ここでは、本製品同士で通信する場合（Ad hocモード）や、弊社製無線LAN USBアダプタ「WN-B11/USB」と直接通信する場合（802.11 Ad hocモード）で、Windows 2000 を使用しているパソコンでの設定手順について説明します。

- 1 [マイ ネットワーク]を右クリックして、  
[プロパティ]をクリックします。

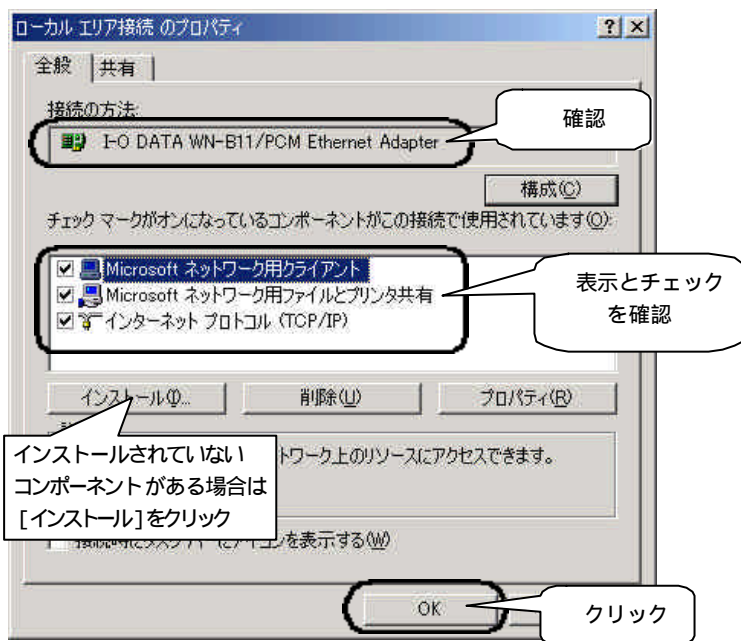


- 2 [ローカルエリア接続]を右クリックして、  
[プロパティ]をクリックします。

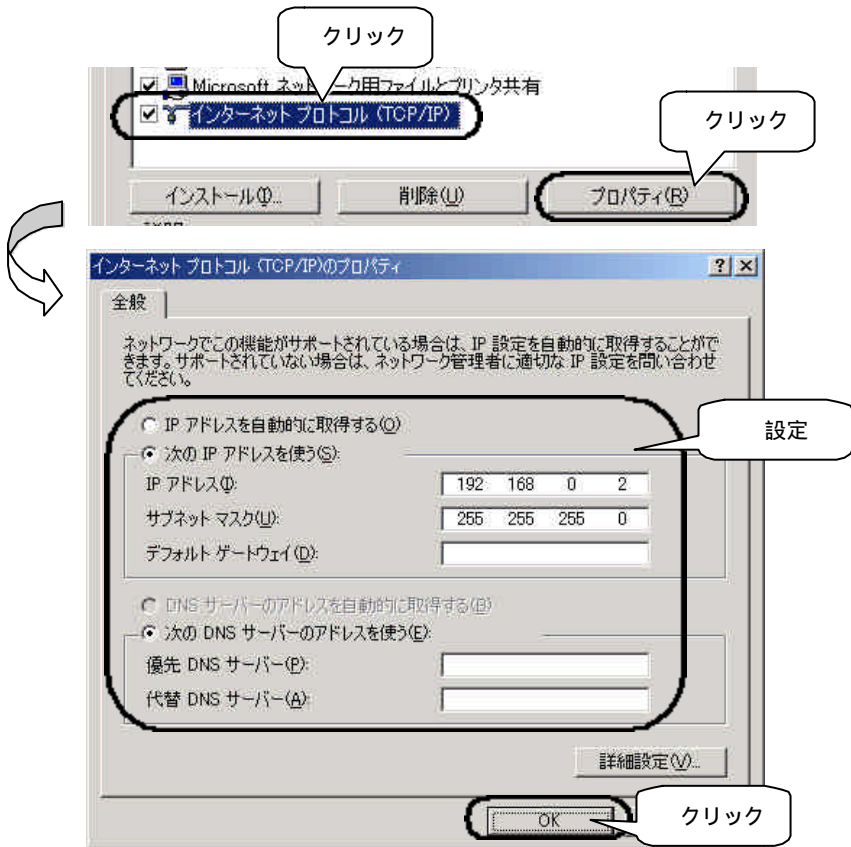


### 3 以下が表示およびチェックされているかを確認します。 確認後、[OK] ボタンをクリックします。

- ・[I-O DATA WN-B11/PCM Ethernet Adapter] の表示
- ・[Microsoft ネットワーク用クライアント] のチェック
- ・[Microsoft ネットワーク用ファイルとプリンタ共有] のチェック
- ・[インターネット プロトコル (TCP/IP)] のチェック



- 4 IPアドレスの設定を行います。  
[インターネットプロトコル(TCP/IP)]をクリックし  
[プロパティ]ボタンをクリックします。  
ご使用のネットワークに応じたIPアドレスを設定してください。  
設定後、[OK]ボタンをクリックします。

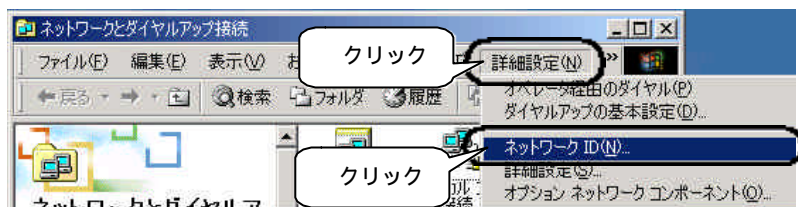


#### 参考

設定するIP アドレスについて...

設定するIP アドレスは、ネットワーク管理者にご確認ください。  
また、121 ページ以降も参照してください。

## 5 [詳細設定]メニューの[ネットワークID]をクリックします。

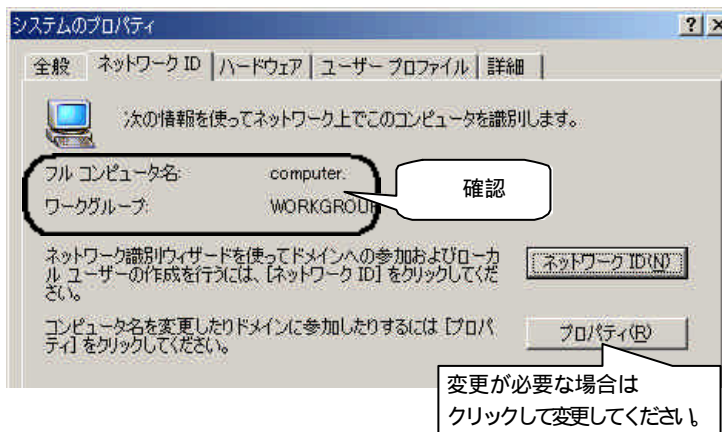


## 6 [フル コンピュータ名]と[ワークグループ]が以下となっていることを確認してください。

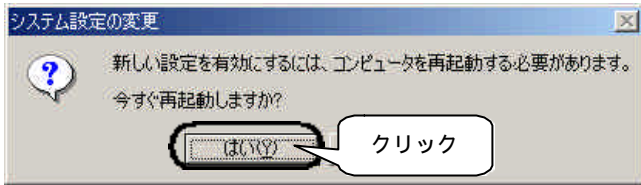
フル コンピュータ名	ネットワーク上のそれぞれのパソコンを識別するための名前。(それぞれのパソコンで別々な固有の名前を設定します。)
ワークグループ	ネットワーク上でグループ分けするための名前。(同じグループではすべて同じグループ名を指定します。) <u>本製品を使って接続する同一ネットワーク上のすべてのパソコンで同じものを指定してください。</u>

相手のコンピュータが見えない等のトラブルを未然に防ぐため、半角英数字の使用をおすすめします。

変更が必要な場合は、  
[プロパティ]ボタンをクリックして、変更してください。



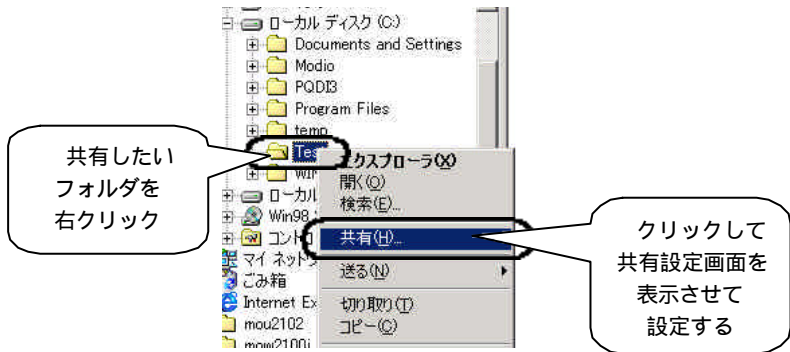
## 7 [はい]ボタンをクリックして、パソコンを再起動してください。



## 8 このパソコンにあるドライブやフォルダあるいはプリンタをネットワーク上の別のパソコンで使いたい(共有したい)場合は、共有の設定をします。

(詳細はWindows 2000のヘルプを参照してください。)

(エクスプローラ上からの共有の設定)



### 参考

共有を設定すれば...

自分のパソコンのドライブやフォルダ等を共有設定すれば、他のワークグループ上のパソコンからアクセスできるようになるため、マウス操作(マウスのドラッグアンドドロップ)で簡単にデータのやりとりができるようになります。

手順についての詳細はWindows 2000 のヘルプを参照してください。

- 9 後は「マイネットワーク」「近くのコンピュータ」を順にダブルクリックすれば、本製品を装着した他のコンピュータ名や共有したフォルダ名等が表示されます。



他のコンピュータ名が  
表示されない場合は...

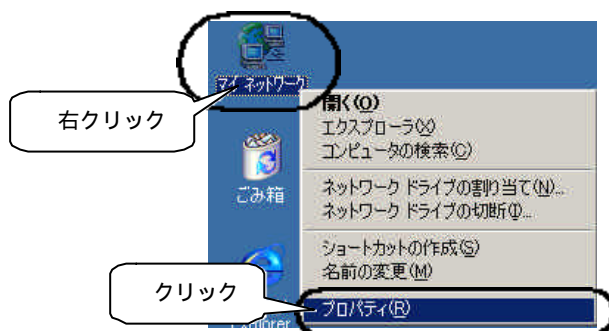
【困ったときには】のP97  
をご参照ください。

以上で、本製品同士で通信する場合(Ad hocモード)での設定は終了です。

## Windows Me/98/95 の場合の設定

ここでは、本製品同士で通信する場合（Ad hocモード）や、弊社製無線LAN USBアダプタ「WN-B11/USB」と直接通信する場合（802.11 Ad hocモード）で、Windows Me/98/95を使用しているパソコンでの設定手順について説明します。

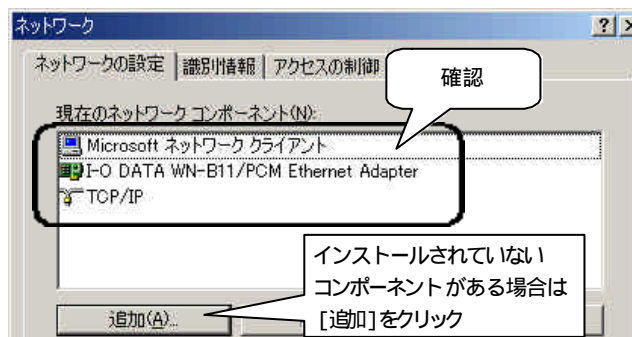
- 1 [マイ ネットワーク](ネットワークコンピュータ)を右クリックして、[プロパティ]をクリックします。



- 2 以下(のコンポーネント)が表示されているかを確認します。

- ・[Microsoftネットワーククライアント]
- ・[I-O DATA WN-B11/PCM Ethernet Adapter]
- ・[TCP/IP]

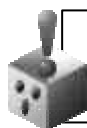
[TCP/IP] と表示されずに、[TCP/IP -> I-O DATA WN-B11/PCM Ethernet Adapter] と表示されている場合もあります。



[I-O DATA WN-B11/PCM ...]  
が表示されていない場合は...

【困ったときには】のP97  
をご参照ください。





表示されていないネットワーク  
コンポーネントがある場合は...

【困ったときには】のP102  
をご参照ください。

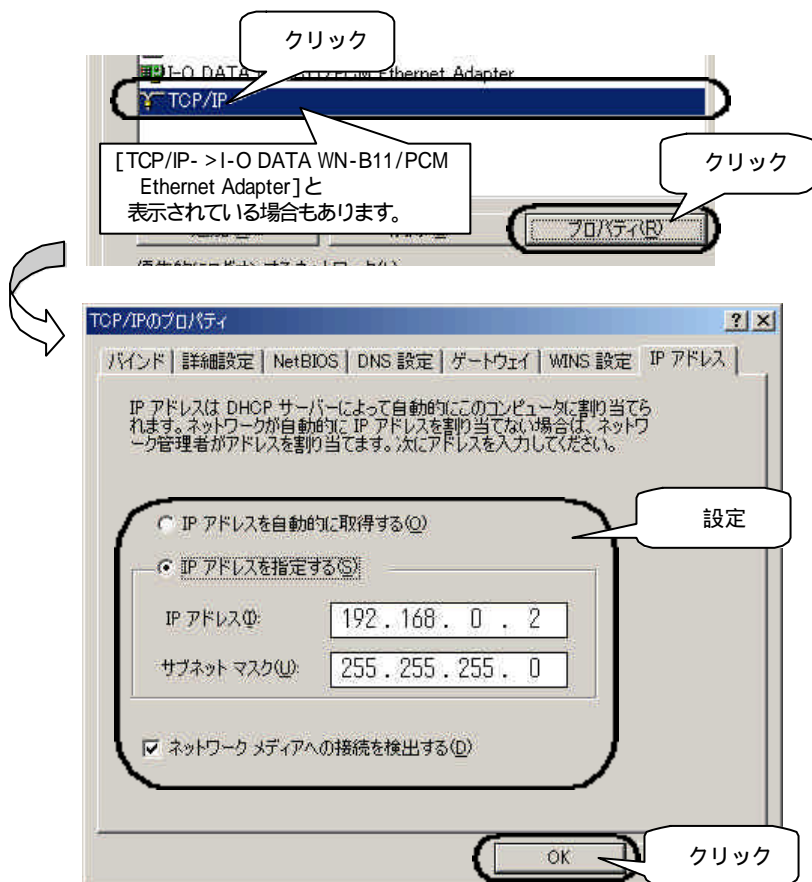
#### 4

IPアドレスの設定を行います。

[TCP/IP] (あるいは[TCP/IP- > I-O DATA WN-B11/PCM  
Ethernet Adapter]) をクリックし

[プロパティ] ボタンをクリックします。

ご使用のネットワークに応じたIPアドレスを設定してください。  
設定後、[OK] ボタンをクリックします。





## 参考

設定するIP アドレスについて...

設定するIP アドレスは、ネットワーク管理者にご確認ください。

また、121 ページ以降も参照してください。

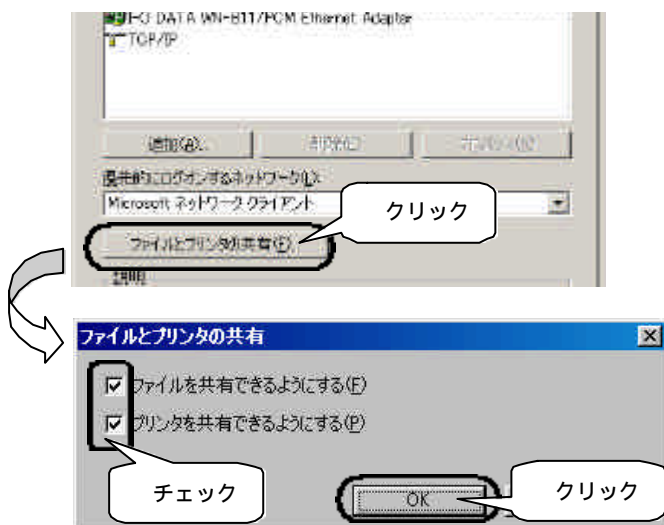


[ TCP/IP - > xxxxxxxxxx ]  
は複数表示されているのに、  
[ TCP/IP - > I-O DATA WN-B11/PCM ... ]  
の表示が無い場合は...

【困ったときには】のP103  
をご参照ください。

- 5 このパソコンにあるドライブやフォルダあるいはプリンタをネットワーク上の別のパソコンで使いたい(共有したい)場合は、共有の設定をします。

[ファイルとプリンタの共有] ボタンをクリックし、共有したい項目をチェックします。チェック後、[OK] ボタンをクリックします。





## 参考

共有を設定すれば...

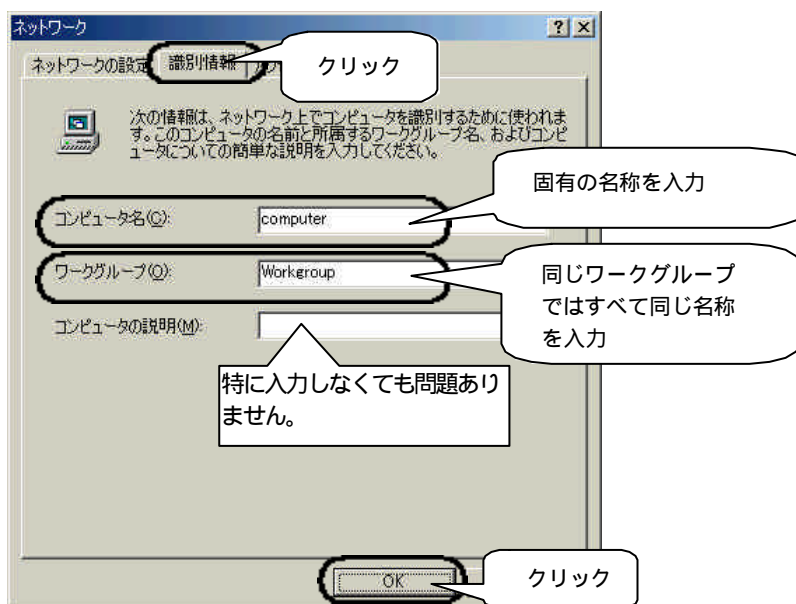
自分のパソコンのドライブやフォルダ等を共有設定すれば、他のワークグループ上のパソコンからアクセスできるようになるため、マウス操作(マウスのドラッグアンドドロップ)で簡単にデータのやりとりができるようになります。

手順についての詳細はWindows のヘルプを参照してください。

- 6 [識別情報] タブをクリックして、  
[コンピュータ名]と[ワークグループ]に以下を入力し、  
[OK] ボタンをクリックしてください。

コンピュータ名	ネットワーク上のそれぞれのパソコンを識別するための名前。(それぞれのパソコンで別々な固有の名前を設定します。)
ワークグループ	ネットワーク上でグループ分けするための名前。(同じグループではすべて同じグループ名を指定します。) <u>本製品を使って接続する同一ネットワーク上のすべてのパソコンで同じものを指定してください。</u>

相手のコンピュータが見えない等のトラブルを未然に防ぐため、半角英数字の使用をおすすめします。



以下の画面が表示された場合は・・・

(Windows 98の場合)



「Windows 98 CD-ROM」を挿入します。

[ OK ] ボタンをクリックします。

以下の画面が表示された場合は・・・

(Windows 98およびWindows 95の場合)

入力

クリック

[ ファイルのコピー元 ] に以下を入力し、[ OK ] ボタンをクリックします。

- ・Windows 98をご自分でインストールした場合  
D:¥WIN98 (CD-ROMドライブがDドライブの場合)
- ・Windows 98あるいはWindows 95プリインストールパソコンをお使いの場合  
Windows 98およびWindows 95がインストールされているドライブの  
¥WINDOWS¥OPTIONS¥CABS

ファイルのコピー元(F):  
C:¥WINDOWS¥OPTIONS¥CABS

Windows 98やWindows 95がCDドライブにプリインストールされている場合の入力例

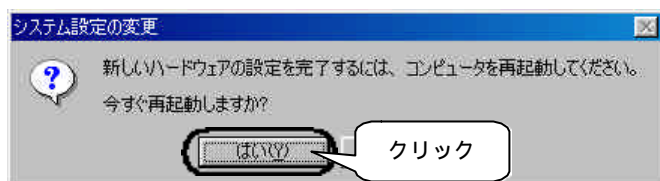


**注意！**

以下のアップグレードをした場合は、C:¥WINDOWS¥OPTIONS¥CABS は選択せず、CD-ROM ドライブを参照してください。

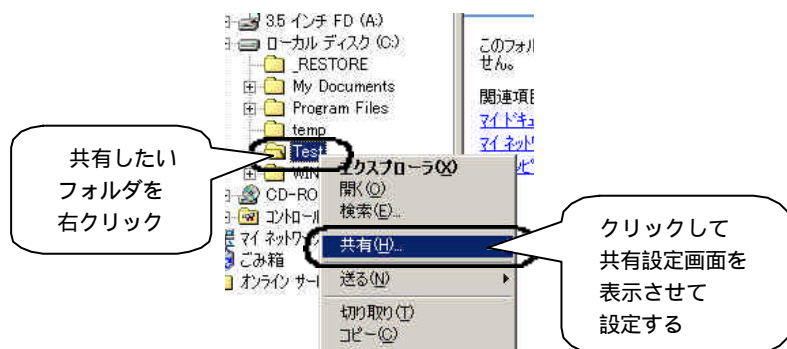
- ・Windows 95 プリインストールモデルを、Windows 98 (Second Edition 含む)へアップグレードした場合
- ・Windows 98 プリインストールモデルをWindows 98 Second Edition へアップグレードした場合

## 7 [はい]ボタンをクリックして、パソコンを再起動してください。



## 8 このパソコンにあるドライブやフォルダあるいはプリンタをネットワーク上の別のパソコンで使いたい(共有したい)場合は、共有の設定をします。 詳細は、Windowsのヘルプを参照してください。

(エクスプローラ上からの共有の設定)



## 9 後は、[マイネットワーク] (ネットワークコンピュータ) をダブルクリックすれば、本製品を装着した他のコンピュータ名や共有したフォルダ名等が表示されます。



他のコンピュータ名が表示されない場合は...

【困ったときには】のP97を  
ご参照ください。

以上で、無線LANアダプタだけで通信する場合([Ad hocモード]または[802.11 Ad hocモード])での設定は終了です。

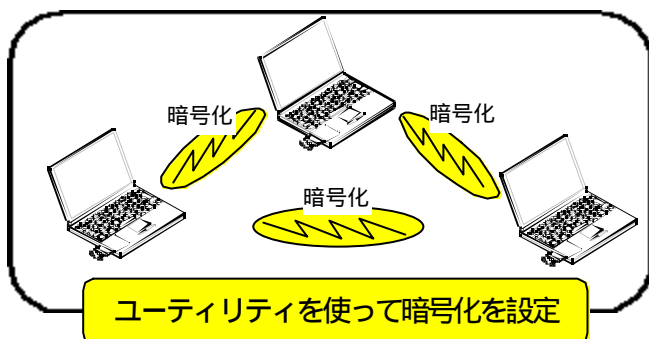
# 通信を暗号化するには

ここでは、通信時の暗号化の設定について説明します。

通信時に暗号化していない場合、電波の届く範囲であれば、通信内容を傍受される危険があります。

本製品では、無線LANの暗号化の標準であるWEP (Wired Equivalent Privacy) での暗号化を行うことによって、傍受の危険を回避することができます。

設定は、ユーティリティを使って行います。



## 注意！

暗号化を行う場合、暗号化で通信するすべてのパソコンで設定が必要です。  
アクセスポイントと通信する場合は、アクセスポイントの暗号化キーに合わせてください。

## 暗号化の設定

- 1 ユーティリティを起動します。  
(起動方法は、52ページを参照してください。)
- 2 [暗号化]タブをクリックし  
[暗号化(WEP)]を[64bit]に設定します。



無効	通信時の暗号化は行いません。
64 Bit	暗号化する際は、これに設定してください。
128 Bit	設定しないでください。 (現在使用できません。)

## 3

暗号方法を設定します。

設定後、[OK] ボタンをクリックします。

アクセスポイントと通信する場合は、アクセスポイントと同じ  
暗号化キーを設定してください。

**注意！**

本製品同士のみでの暗号化の場合に、以下のパスフレーズでの設定で暗号化通信ができます。

弊社製無線LAN USB アダプタやアクセスポイントおよび他社製の無線LAN 製品と暗号化を行う場合は、必ず次ページの手動による暗号化で暗号化キーを設定してください。

### WEPキーを作成する場合

ここでは、「パスフレーズ」を使って作成する方法を説明します。

[パスフレーズ付で作成] をチェックします。

[パスフレーズ] に、好きな文字列を入力します。

[更新] ボタンをクリックします。

「キー 1」～「キー 4」が作成されます。

[デフォルト送信キー] で選択されている番号のキーをメモします。

このキーを次ページの[WEPキーがある場合] を参照して、  
他のパソコンに入力します。

[OK] ボタンをクリックします。

Windowsを再起動します。





## WEPキーがある場合

[ 手動で作成 ] をチェックします。

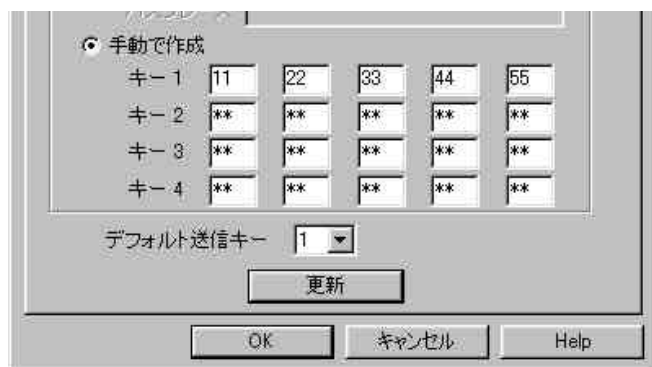
[ デフォルト送信キー ] で選択されている番号のキーにWEPキーを入力します。

通常、[ デフォルト送信キー ] は「1」を選択します。

[ 更新 ] ボタンをクリックします。

[ OK ] ボタンをクリックします。

Windowsを再起動します。



### 入力する キー

0～9またはA～Fの文字列を用いて入力してください。

設定する値は、本製品と通信する機器と同じ値にする必要があります。

すでに設定済みの機器と通信する場合は、すでに設定済みの機器の暗号化キーの値を確認し、入力してください。

(他社製品との暗号化については、次ページ参照)



### 注意！

暗号化を行う場合、暗号化で通信するすべてのパソコンで設定する必要があります。  
アクセスポイントと通信する場合は、アクセスポイントの暗号化キーに合わせてください。

**参考： 暗号化キー入力方式の異なる他社製品との暗号化について**

本製品を含む WN-B11 シリーズでは暗号化キーとして 16 進コードでの暗号化キー入力方式を採用していますが、他社製品には、5 文字の英数字・記号で暗号化キーを指定する方式や、文字列から 16 進コードへ変換する際、本製品と変換方式の異なる製品があります。

これらの製品と暗号化を行う場合は、最初に英数字・記号の 5 文字で暗号化キーに使用する文字列を決め、16 進コードを入力できない他社製品はこの 5 文字の文字列を入力します。

WN-B11 シリーズや 16 進コードを入力可能な他社製品にはこの 5 文字の文字列を下記対応表に基づき、16 進コードに変換したうえで入力することで通信可能となります。

各文字と 16 進コードの対応については下記の表を参照してください。

<例> 文字で "PLANT" と設定している場合、  
16 進コードでは [50 4c 41 4e 54] となります。

文字	16 進	文字	16 進	文字	16 進	文字	16 進	文字	16 進	文字	16 進	文字	16 進
!	21	/	2f	=	3d	K	4b	Y	59	g	67	u	75
"	22	0	30	>	3e	L	4c	Z	5a	h	68	v	76
#	23	1	31	?	3f	M	4d	[	5b	i	69	w	77
\$	24	2	32	@	40	N	4e	¥	5c	j	6a	x	78
%	25	3	33	A	41	O	4f	]	5d	k	6b	y	79
&	26	4	34	B	42	P	50	^	5e	l	6c	z	7a
'	27	5	35	C	43	Q	51	_	5f	m	6d	{	7b
(	28	6	36	D	44	R	52	`	60	n	6e		7c
)	29	7	37	E	45	S	53	a	61	o	6f	}	7d
*	2a	8	38	F	46	T	54	b	62	p	70		7e
+	2b	9	39	G	47	U	55	c	63	q	71		
,	2c	:	3a	H	48	V	56	d	64	r	72		
-	2d	;	3b	I	49	W	57	e	65	s	73		
.	2e	<	3c	J	4a	X	58	f	66	t	74		

# アクセスポイントと通信するには

アクセスポイントと通信する場合は、まずアクセスポイントに付属の取扱説明書を参照して、設定をすべて終了してください。

その後、アクセスポイントと通信できます。

その際、以下の設定をご確認ください。



## 注意！

本製品を利用してアクセスポイントを設定する場合は、TCP/IP を設定し、アクセスポイントに添付のユーティリティを使用すれば、無線でアクセスポイントを設定することも可能です。

ただし、無線でセキュリティの設定（通信の暗号化の設定）を行うと正常に動作しなくなる可能性があります。

また、設定中に電波が不安定になると、アクセスポイントとの通信ができなくなります。



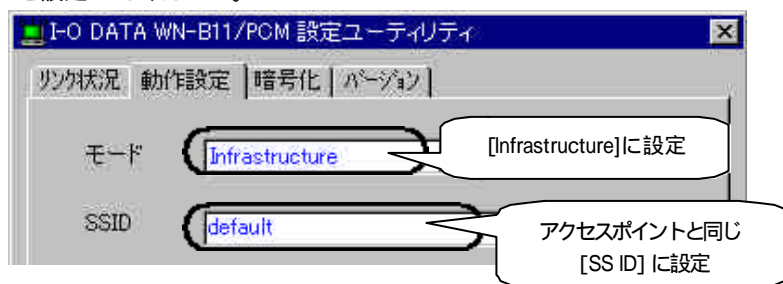
**設定** : ユーティリティで[モード]と[SS ID] および[暗号化]キーを設定してください。

アクセスポイントと通信する際は、ユーティリティで以下の設定が必要です。

モード	[Infrastructure]に設定します。
SS ID	アクセスポイントと同じ[SS ID]を入力してください。
暗号化キー	アクセスポイントと同じ[暗号化キー]を設定してください。（設定方法は、【通信を暗号化するには】(73ページ)参照）

[SS ID] や [暗号化キー] が同じでないと通信できません。

アクセスポイント側の設定を確認し、本製品のユーティリティで同じ値を設定してください。





参考

アクセスポイントによっては、SS ID がESS ID と記載されている場合もあります。



**設定** : TCP/IPの設定を確認してください。

本製品を使用しているパソコンのTCP/IPの設定を確認してください。  
アクセスポイントに接続されている有線LAN内のIPアドレスと重なっていないか、DHCPサーバが使用されていないか、などをネットワーク管理者にご確認ください。

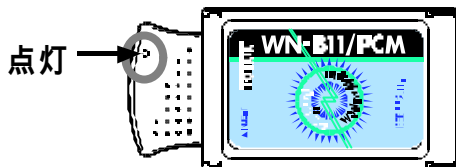


**設定** : アクセスポイントの設定が終了していることを確認してください。

アクセスポイントの設定が終了していないと通信できません。  
また、本製品を搭載したパソコンの電源を入れる前にアクセスポイントの電源が入っていることを確認ください。

1 アクセスポイントの電源が入っていることを確認してください。

2 本製品を装着したすべてのパソコンの電源を入れます。  
本製品の[LINK]ランプが緑色に点灯するかを確認してください。

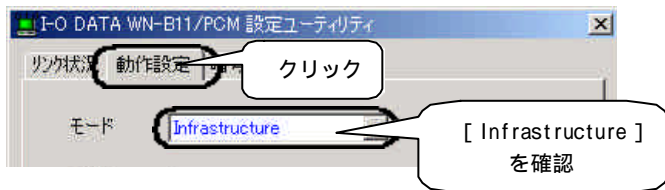


【LINK】ランプが  
消灯している場合は...

【困ったときには】のP92  
をご参照ください。

2 ユーティリティを起動します。  
(【ユーティリティの起動】52ページ参照)

3 【動作設定】タブで  
【モード】が【Infrastructure】となっていることを確認します。



参考

【モード】が異なっている場合、および、アクセスポイントがネットワーク上に見つからない場合は、【LINK】ランプは点滅します。

- 4 正常に通信できているかを確認します。  
 正常に通信できている場合、[リンク状況] タブで[状態] が  
 “Associated .....”と表示されます。  
 確認後、[OK] ボタンをクリックして、画面を閉じてください。



[ Associated・... ] 以外の  
表示がある場合は...

【困ったときには】の P99  
をご参照ください。

# インターネットにアクセスするには

ここでは、本製品を使用しているパソコンからインターネットにアクセスする方法について説明します。



## 注意！

弊社では、本製品が正しく動作し、ファイルやプリンタの共有が確認できるまでをサポート範囲としております。

本製品が正しく動作する環境で、インターネット接続の共有についてのサポートは、お使いのパソコンまたはOSのサポートメーカーへお問い合わせください。

(プリインストールパソコンの場合はパソコンメーカーがサポート先となります。)

インターネットにアクセスするには、以下の2つの方法があります。

### 方法1 インターネット接続共有で行う方法(次ページ以降参照)

Windows 2000 や Windows Me, Windows 98 Second Edition (以下 Windows 98 SE と略します) の標準機能である「インターネット接続の共有」を使用すると、1台のモデムをネットワーク上のすべてのパソコンで使えるようになり、モデムが接続されていないパソコンからでもインターネットに接続できます。

### 方法2 アクセスポイント経由で行う方法

アクセスポイントに接続されているネットワークが、インターネットに接続できるように設定されていれば、アクセスポイントを経由してインターネットにアクセスすることができます。

詳細は、アクセスポイントの取扱説明書を参照してください。

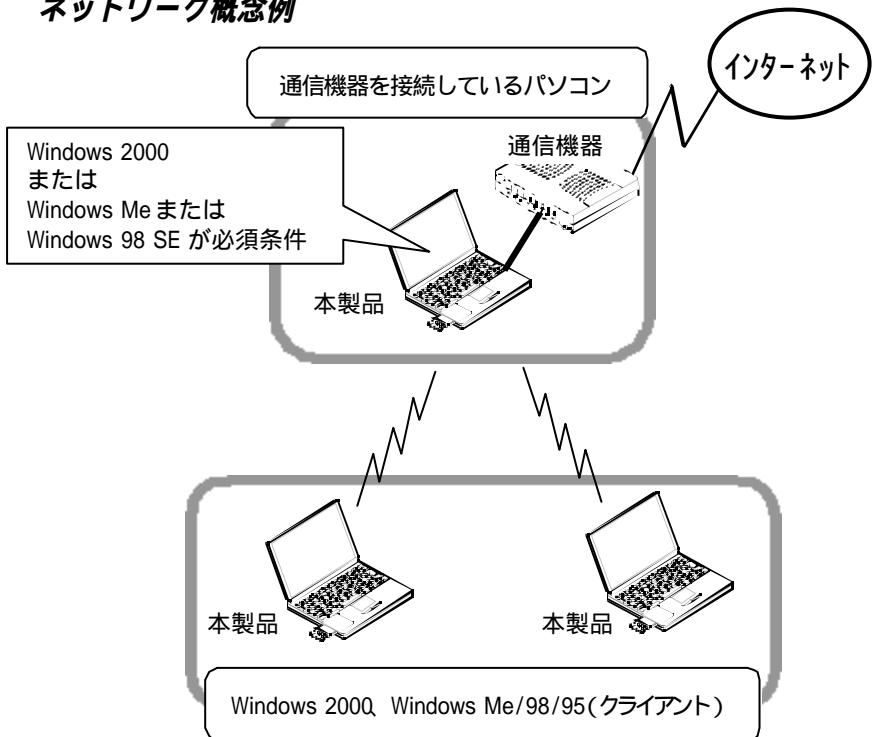
## インターネット接続共有について

### インターネット接続の共有とは？

Windows 2000 や Windows Me、Windows 98 SE の標準機能である「インターネット接続の共有」を使用すると、1 台のモデムなどの通信機器をネットワーク上のすべてのパソコンで使えるようになり、通信機器が接続されていないパソコンからでもインターネットに接続できます。

例えば、Windows 2000 や Windows Me や Windows 98 SE 搭載のパソコンに接続されている通信機器を使って、通信機器が接続されていない Windows 2000 や Windows Me/98/95 搭載のパソコン（クライアント）からインターネットへ接続することが可能です。

### ネットワーク概念例



通信機器が接続されていなくても、  
通信機器を接続しているパソコン経由で  
インターネットに接続できる



## 設定前の確認

以下のことを確認した上で、インターネット接続の共有に必要な設定を行ってください。

- 通信機器が接続されているパソコンは、Windows 2000やWindows MeおよびWindows 98 SEが搭載されており、ダイヤルアップ接続を使ってインターネットに接続できること。
- それぞれのパソコンには、本製品が正しく取り付けてあり、ネットワークが正しく構築されていること（ファイルやプリンタの共有ができること）。



### 注意！

弊社では、本製品が正しく動作し、ファイルやプリンタの共有が確認できるまでをサポート範囲としております。

本製品が正しく動作する環境で、インターネット接続の共有についてのサポートは、お使いのパソコンまたはOS のサポートメーカーへお問い合わせください。

（プリインストールパソコンの場合はパソコンメーカーがサポート先となります。）

## 設定方法

インターネット接続の共有は、Windows 2000やWindows MeおよびWindows 98 SEの標準機能です。

設定方法は、Windowsの取扱説明書、または、オンラインヘルプを参照してください。オンラインヘルプは、[ スタート ] [ ヘルプ ] から[インターネット接続の共有]というキーワードで検索できます。

## 第5章

# 取り外す場合

この章では、本製品をPCカードスロットから取り外す手順について説明します。

### 本製品の取り外し

86ページ

本製品の取り外し手順について説明します。

# 本製品の取り外し

本製品は、パソコンの電源を切った後にPCカードスロットから取り外すことができますが、Windows 2000やWindows Me/98/95をご使用の場合は、Windows 2000やWindows Me/98/95使用中に取り外すこともできます。



## 注意！

本製品を取り外す場合は、本製品を使用していない、また、他のパソコンからアクセスされていないことを確認してから取り外してください。

・Windows NT 4.0 使用中に、本製品を取り外すことはできません。

Windows NT 4.0 の場合は、必ず、Windows NT 4.0 を終了し、パソコンの電源を切ってから、本製品をPC カードスロットから取り外してください。

以下の手順を行うと、実際に本製品をPC カードスロットから抜かなくても動作は終了したとみなされ、本製品は使用できなくなります。

再度使用したい場合は、いったんPC カードスロットから本製品を抜いて、再び接続してください。

## Windows 使用中に取り外す場合

- 1 画面右下のタスクトレイの  (または ) アイコンをクリックし、[I-O DATA WN-B11/PCM.....]をクリックします。

(Windows 2000での表示例)



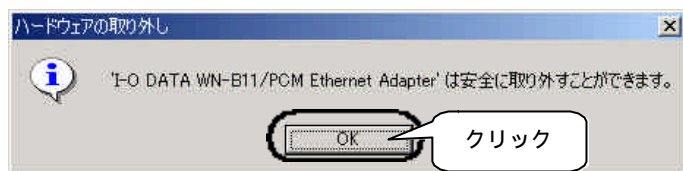
(Windows Meでの表示例)



(Windows 98/95での表示例)



## 2 [OK] ボタンをクリックします。



(Windows 2000での表示例)

## 3 本製品をPCカードスロットから取り外します。

以上でWindows 2000およびWindows Me/98/95上での取り外しの手順は終了です。

再度使用したい場合は、そのままPCカードスロットに挿入すれば使用できます。

*MEMO*

必要に応じてお読みください。

## 困ったときには

90ページ

本製品を使用して異常があった場合をご覧ください。

## ユーティリティについて

105ページ

設定ユーティリティについて説明します。

## 本製品を削除するには

114ページ

インストールしたドライバソフトやユーティリティソフトの削除方法について説明します。

## ネットワークコンポーネントについて

115ページ

ネットワークコンポーネントについて説明します。

## 本製品のMACアドレスについて

126ページ

本製品のMACアドレスについて説明します。

## 用語解説

127ページ

用語について説明します。

## 仕様

130ページ

本製品の仕様について説明します。

# 困ったときには

本製品を使用していて異常があった場合にご覧ください。

状態	参照ページ
本製品を取り付けてもLinkランプが点灯、あるいは点滅しない フロッピーディスクドライブがないので、インストールできない	9 2
[ デバイスマネージャ ] の確認で、[ I-O DATA WN-B11/PCM Ethernet Adapter ] が表示されない	9 3
[ デバイスマネージャ ] の確認で、[ I-O DATA WN-B11/PCM Ethernet Adapter ] の頭に、黄色の ! マークがついている	
本製品が正常に動作しない	9 7
[ ネットワーク ] 画面で、[ I-O DATA WN-B11/PCM Ethernet Adapter ] が表示されない	
[ マイネットワーク ] ( ネットワークコンピュータ ) に、他のコンピュータ名が表示されない	
[ Infrastructure ] モード使用時 ( アクセスポイントにアクセス時 ) に、設定ユーティリティの [ リンク状況 ] に “ Associated・...” 以外が表示される	9 9
[ Ad hoc ] モード、または [ 802.11 Ad hoc ] モード使用時に、設定ユーティリティの [ リンク状況 ] に “ Associated・...” 以外が表示される	
「レジューム」「ハイパネーション」「スタンバイ」の後、動作が不安定になる	1 0 0
設定ユーティリティがインストールできない	1 0 1

状態	参照ページ
(Windows Me/98/95のみ) インストール後の確認で、[ ネットワークパスワードの入力 ] 画面が表示されない	1 0 1
(Windows Me/98/95のみ) インストール後の確認で、デスクトップ上に、[ マイネット ワーク ] ( ネットワークコンピュータ ) アイコンが表示されな い	1 0 2
(Windows Me/98/95のみ) ネットワークの設定で、[Microsoftネットワーククライアント] が表示されない	
(Windows Me/98/95のみ) ネットワークの設定で、[TCP/IP]が表示されない	1 0 3
(Windows Me/98/95のみ) [ ネットワーク ] 画面に、 [ TCP/IP - > xxxxxxxx ] は複数表示されているのに、 [ TCP/IP - > I-O DATA WN-B11/PCM Ethernet Adapter ] が表示されていない	
(Windows NT 4.0のみ) インストール後の確認で、[ サービスコントロールマネー ジャ ] によるエラー画面が表示される	1 0 4
(Windows NT 4.0のみ) 本製品のドライバをインストール後、Windows NT 4.0が正常に 動作しない	



## トラブルの状態と対処

### 本製品を取り付けてもLINKランプが点灯、あるいは点滅しない

原因 1	本製品を取り付けているPCカードスロットが不安定である。
対処 1	17ページでの手順 1 3 でLINKランプが点滅しない場合は、手順 1 4 を行う前（[設定ユーティリティのインストール]をダブルクリックする前）に、一度パソコンを再起動してください。
対処 2	別のPCカードスロットに取り付けてみてください。

原因 2	パワーマネジメント機能がONになっている。
対処	本製品を取り外してから、パワーマネジメント機能をOFFにします。再度、本製品を取り付けてください。

### フロッピーディスクドライブがないので、インストールできない

対処	4ページを参照して、弊社ホームページ（ <a href="http://www.iodata.co.jp/">http://www.iodata.co.jp/</a> ）より「設定ユーティリティ」を入手してください。
----	--

**[ デバイスマネージャ ] の確認で、  
[ I-O DATA WN-B11/PCM Ethernet Adapter ] が表示されない**

原因	本製品を取り付けていない、または、正しく取り付けていない。
対処	<p>本製品を差し込んでいない状態では表示されません。本製品がPCカードスロットに差し込まれていることを確認してください。</p> <p>タスクトレイ（画面右下）にPCカードアイコンがなければ、本製品をそのまま取り外して、もう一度取り付けてください。</p> <p>タスクトレイにPCカードアイコンがあれば、【第5章 取り外す場合】(85ページ)を参照して、カードを取り外し、もう1度、取り付けてください。</p>

**[ デバイスマネージャ ] の確認で、[ I-O DATA WN-B11/PCM Ethernet Adapter ] の頭に、黄色の！マークがついている**

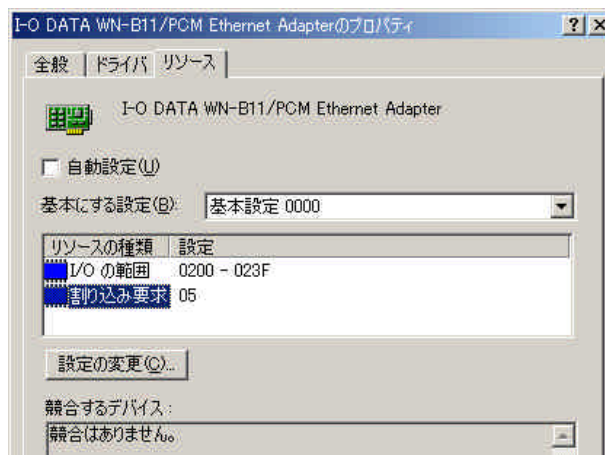
原因1	パソコンを再起動していない。
対処	<p>本製品をPCカードスロットに挿入したまま、パソコンを再起動します。再起動後、もう1度、【インストール後の確認】(40ページ)の手順で再度確認してみてください。</p>
原因2	リソースが競合している。
対処	<p>次ページの手順を行ってみてください。（画面は、DOS/VマシンでのWindows 98を例にしています。）</p>

- 1 !マークが表示されている [ I-O DATA WN-B11/PCM Ethernet Adapter ] をクリックし、[ プロパティ ] ボタンをクリックします。



- 2 [ リソース ] タブをクリックし、[ 競合するデバイス ] 欄内に表示されている競合しているリソース ( [ 割り込み要求 ] , [ I/O の範囲 ] ) を確認します。このリソースの変更や競合する製品側でのリソースの変更を行います。

次ページ以降の方法で変更してみてください。



## リソースの変更

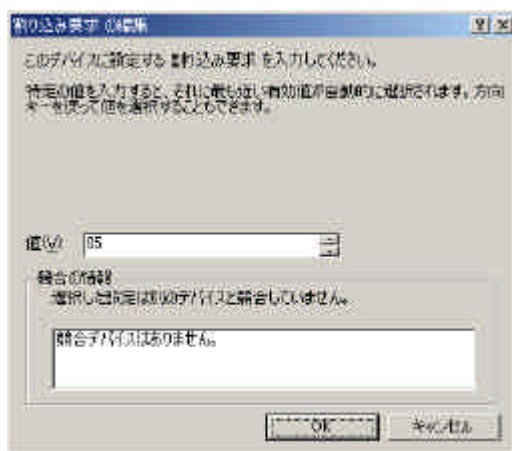
### 方法 1 本製品側でリソースの変更を行う方法

ご使用のパソコンによっては、変更できない場合があります。  
その場合は、以下の方法をお試しください。

- 1 [自動設定] (Windows 98の場合は、[自動設定を使う]) のチェックを外します。  
競合しているリソース ([割り込み要求], [I/Oの範囲]) をクリックし、[設定の変更] ボタンをクリックします。



- 2 競合デバイスが無い値に変更します。変更後、[OK] ボタンをクリックしてすべての画面を閉じます。



- 3 Windowsを再起動して、! マークが消えていないか確認してみてください。

## リソースの変更

### 方法2 本製品と競合している製品側で リソースの変更で行う方法

- 1 [デバイスマネージャ]画面で、競合している製品を探します。（詳細は、その製品の取扱説明書やメーカーにご確認ください。）
- 2 後は、前ページの手順1～3を参考に、その製品のリソースの変更ができないか、おためしください。

## リソースの変更

### 方法3 パソコン本体に 空きのリソースを作成する方法

- 1 既存のデバイスの内、使用していないものを無効にしたり、取り外したりして、必要なリソースの空きを作ってください。方法については、パソコン本体の取扱説明書を参照してください。
- 2 空きを作成後、！マークが消えていないか確認してみてください。




#### 参考

#### 《パソコンで使用しているリソースの確認方法》

1. [マイコンピュータ]を右クリックし、メニューから[プロパティ]をクリックします。
2. [デバイスマネージャ]タブをクリックし、[コンピュータ]を選択します。
3. [プロパティ] ボタンをクリックして、リソースの空きが確認できます。  
(詳しくはパソコン本体の取扱説明書をご覧ください。)

## 本製品が正常に動作しない

原因	間違ったドライバが既にインストールされている、または、インストール時に[スキップ]ボタンや[キャンセル]ボタンなどをクリックして中断したためにドライバが正常にインストールされていない。
対処	<p>[デバイスマネージャ]の一覧、[ネットワークアダプタ]の下に[イーサネットコントローラ]が無いかご確認ください。</p>  <p>ある場合は、[イーサネットコントローラ]をクリックし、[削除]ボタンで削除後、パソコンを再起動してください。</p> <p>再起動後、【1. Windows 2000/Me/98/95】(10ページ)の個所を参照して、再度インストールを行ってください。</p>

## [ネットワーク]画面で、[I-O DATA WN-B11/PCM Ethernet Adapter]が表示されない

対処	上記【本製品が正常に動作しない】の[対処]を参照してください。
----	---------------------------------

## [マイネットワーク](ネットワークコンピュータ)に、他のコンピュータ名が表示されない

原因1	本製品を正しく取り付けしていない。
対処	<p>タスクトレイ(画面右下)にPCカードアイコン(またはハードウェアの取り外しアイコン)がなければ、本製品をそのまま取り外して、もう一度取り付けてください。PCカードアイコン(またはハードウェアの取り外しアイコン)があれば、【第5章 取り外す場合】(85ページ)の各OSの項を参照して、カードを取り外し、もう1度、取り付けてください。</p> <p>正しく通信できていれば、本製品のLINKランプが緑色に点灯( [ 802.11 Ad hoc ] モード時は点滅 ) します。</p>

原因 2	アクセスポイントを使用していない場合で、他のワークグループのパソコンの通信チャンネルの値を同一にしていない。
対処	アクセスポイントが無い場合は、他のワークグループと同じ通信チャンネルにする必要があります。 【本製品の設定】(52ページ)を参照して、通信チャンネルを同じ値にしてください。
原因 3	アクセスポイントを使用していない場合で、他のワークグループのパソコンと同じワークグループ名が指定されていない。
対処	【インストール後の確認】(40ページ)の各OSの項を参照して、ネットワーク上のすべてのパソコンに対し、同じワークグループ名を指定してください。
原因 4	アクセスポイントを使用している場合で、アクセスポイントと同じSS IDを設定していない。
対処	アクセスポイントと通信する場合は、アクセスポイントと同じSS IDにする必要があります。 【本製品の設定】(52ページ)を参照して、SS IDを同じ値にしてください。
原因 5	IPアドレスの設定が間違っている。
対処	正しい設定にしてください。(121ページ以降参照)
原因 6	無線状態が悪く、電波が届かない。
対処	無線間の距離を短くしたり、障害物を取り除いたり、通信チャンネルを変更してから、もう1度、試してみてください。 通信チャンネルの変更方法は109ページ参照。

**[Infrastructure]モード使用時(アクセスポイントにアクセス時)に、設定ユーティリティの[リンク状況]に、“Associated……”以外が表示される**

対処	97ページ【[マイネットワーク](ネットワークコンピュータ)に他のコンピュータ名が表示されない】の対処方法を参照してください。
原因	通信モードを [ Ad hoc ] モードに設定している
対処	【アクセスポイントと通信するには】(78ページ)を参照して [ モード ] を [ Infrastructure ] に変更してください。

**[Ad hoc]モード、または802.11 Ad hoc]モード使用時に、設定ユーティリティの[リンク状況]に、“Associated……”以外が表示される**

対処	97ページ【[マイネットワーク](ネットワークコンピュータ)に他のコンピュータ名が表示されない】の対処方法を参照してください。
原因	通信モードを [ Infrastructure ] モードに設定している
対処	【無線LANアダプタ同士だけで通信するには】(58ページ)を参照して [ モード ] を [ Ad hoc ] または [ 802.11 Ad hoc ] に変更してください。



## 「レジューム」「ハイバネーション」「スタンバイ」の後、 動作が不安定になる

対処

「レジューム」「ハイバネーション」「スタンバイ」を行わないように設定してください。



### 注意！

「レジューム」「ハイバネーション」はメーカー独自のユーティリティやパソコン本体のBIOSで設定している場合があります。

設定を変更するにはパソコン本体の取扱説明書をご覧ください。パソコンメーカーにお問い合わせください。



### 参考

「レジューム」とは...

レジューム機能とは、しばらく何も操作しないでいたり、電源を入れたままノートパソコンのふたを閉めると自動的に働く省電力機能です。

#### レジューム機能の停止方法 (Windows Me/98/95 の例)

[スタート] [設定] [コントロールパネル] の [電源の管理] アイコンをダブルクリックします。

[システムスタンバイ] 欄の [電源に接続] [バッテリーを使用中] を共に「なし」に設定してください。



### 参考

「ハイバネーション」とは...

ハイバネーション機能とは、ノートパソコンでバッテリーが残り少なくなると自動的に電源を切る直前の状態をハードディスクに保存しておき、電源を入れた時に元の状態に戻す機能です。

ハイバネーション機能が無効になるよう設定してください。



### 参考

本製品を使用中は、スタンバイ機能に対応しているパソコンでは「[スタート] [Windowsの終了]」での[スタンバイ]は選択しないでください。

## 設定ユーティリティがインストールできない (以下のようなエラーとなる)

### エラーメッセージ

「InstallShieldエンジン(iKernel.exe)をインストールできませんでした。  
システムは、指定されたデバイスからは読み取れません。」

原因	<p>パソコンに常駐しているアプリケーションが、InstallShieldの動作の妨げになっている。</p> <p>(弊社では、RealNetworks社提供の「RealJukebox」がインストールされている環境にて発生することを確認しています。)</p>
対処	<p>設定ユーティリティをインストールする場合のみ、常駐しているアプリケーションを常駐解除してください。(「設定ユーティリティ」のインストール時のみのもので、インストール後は、常駐してもかまいません。)</p> <p>・RealJukeboxでの常駐を解除する例</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. タスクトレイに常駐している「RealJukebox」のアイコンを右クリックします。</li> <li>2. メニューから「StartCenterを終了」をクリックします。</li> <li>3. タスクトレイから常駐解除されたことを確認した上で、再度、設定ユーティリティをインストールしてください。</li> </ol> <p>常駐解除は一時的な操作であり、アプリケーションをアンインストールする操作ではありません。</p>

### (Windows Me/98/95 のみ)

## インストール後の確認で、[ ネットワークパスワードの入力 ] 画面が表示されない

原因	設定ユーティリティが正常にインストールされていない。
対処	【Windows Me/98/95の確認】での【確認】(44ページ)で、インストールが正常かを確認してください。

(Windows Me/98/95 のみ)

インストール後の確認で、デスクトップ上に、[マイネットワーク]  
(ネットワークコンピュータ) アイコンが表示されない

原因	ネットワークの設定で [Microsoft ネットワーククライアント] が登録されていない。
対処	[ スタート ] [ 設定 ] [ コントロールパネル ] [ ネットワーク ] を開き、[ Microsoft ネットワーククライアント ] が登録されているか確認してください。 無い場合は、[ 追加 ] ボタンで追加してください。 また、[ 優先的にログインする ] を [ Microsoft ネットワーククライアント ] になっているかも確認してください。

(Windows Me/98/95 のみ)

ネットワークの設定で、[Microsoft ネットワーククライアント] が表示されない

原因	[Microsoft ネットワーククライアント] がインストールされていない、または、優先的にログオンするネットワークの指定が正しくない。
対処	115 ページの手順を行ってください。

(Windows Me/98/95 のみ)

ネットワークの設定で、[TCP/IP] が表示されない

原因	[TCP/IP] がインストールされていない。
対処	118 ページの手順を行ってください。

(Windows Me/98/95 のみ)

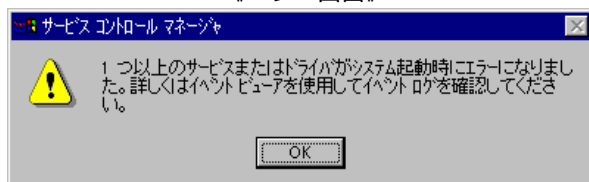
[ネットワーク]画面に、  
[TCP/IP - >xxxxxxx] は複数表示されているのに、  
[TCP/IP - >I-O DATA WN-B11/PCM Ethernet Adapter]  
が表示されていない

原因	登録されているLANアダプタの数が多い。 (登録できるLANアダプタの数には、制限があります。)
対処	<p>[ネットワーク]画面で、必要の無い、あるいは使用していないLANアダプタをクリックして、[削除]ボタンで削除してください。</p> <p><i>必要の無いLANアダプタの例</i></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・以前使用していたが、現在使用していないLANアダプタ</li> <li>・赤外線通信を行わない場合の「赤外線通信アダプタ」 赤外線通信アダプタの名称は、パソコン本体により異なります。 また、パソコン本体のBIOSの設定が必要となる場合がありますので、詳細はパソコンメーカーにお問い合わせください。</li> <li>・インターネット・プロバイダに「AOL」を使用していない場合の「AOL Adapter」および「AOL Dialup Adapter」</li> </ul>

(Windows NT 4.0 のみ)

インストール後の確認で、[ サービスコントロールマネージャ ] によるエラー画面が表示される

《エラー画面》



原因 1	本製品が正しく取り付けられていない。
対処	Windows NT 4.0を終了し、パソコンの電源を切ります。 本製品を挿入しなおします。 Windows NT 4.0を起動します。 それでも正常動作しない場合は、取り付けるスロットを変更してお試しください。
原因 2	サービスパックをインストールし直していない。
対処	サービスパックをインストールし直し、その後再起動してください。 (【2. Windows NT 4.0】(25ページ)でのインストール手順で、サービスパック以前の古いバージョンのファイルが組み込まれる場合がありますためです。)

(Windows NT 4.0 のみ)

本製品のドライバをインストール後、Windows NT 4.0 が正常に動作しない

原因	ドライバのインストール前に、サービスパックをインストールしていた。
対処	本ページの上記[原因2]の[対処]を参照してください。

# ユーティリティについて

添付のユーティリティで本製品の各種設定を行うことができます。

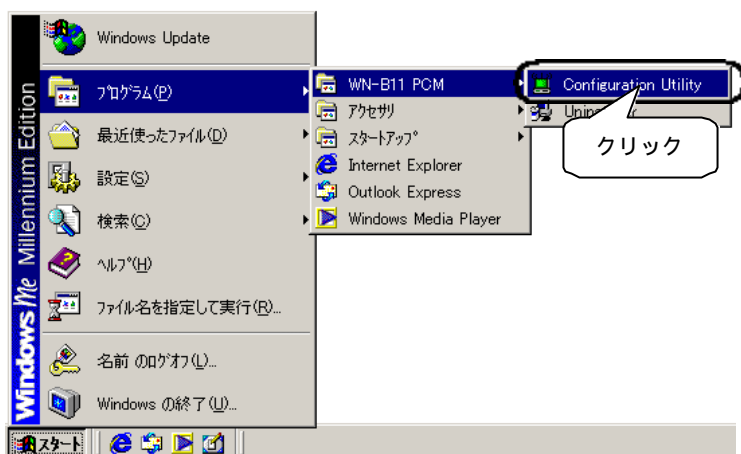
ここでは、ユーティリティの詳細について説明します。

・ユーティリティの起動方法	次ページ参照
・アイコン色による電波強度の確認	次ページ参照
・通信状態の表示・・・[リンク状況]タブ	107ページ参照
・無線LANアダプタの設定・・・[動作設定]タブ	109ページ参照
・暗号化の設定・・・[暗号化]タブ	112ページ参照
・本ユーティリティについて・・・[バージョン]タブ	113ページ参照

タブ名	内容
リンク状況	通信状態を表示します。 実際に通信が正常に行われているか確認することができます。
動作設定	無線LANの設定を行うことができます。
暗号化	通信の暗号化の設定を行うことができます。
バージョン	本ユーティリティの説明です。

## ユーティリティの起動方法

[ スタート ] [ プログラム ] [ WN-B11 PCM ] [ Configuration Utility ] を順にクリックすれば起動できます。



### 参考

画面右下のタスクトレイのアイコンをクリックすることでも起動することができます。



## アイコン色による電波強度の確認

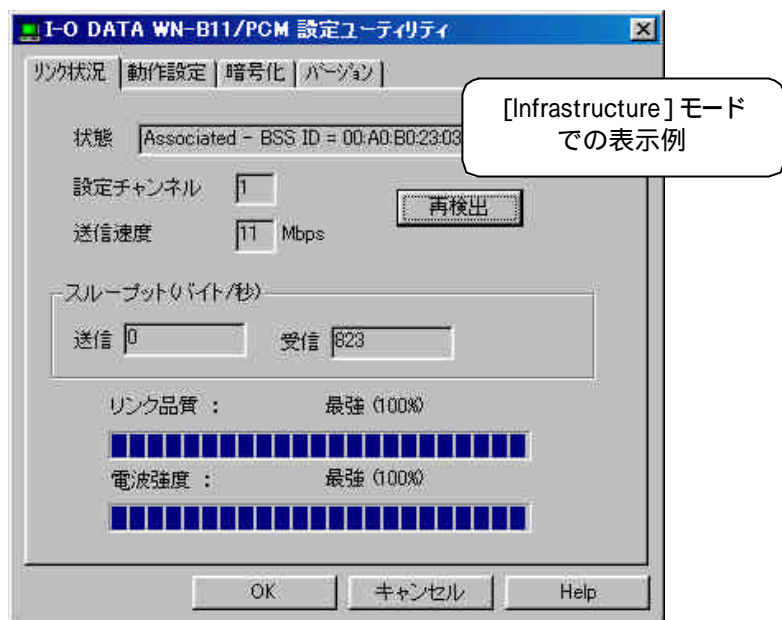
上記 [ 参考 ] 内のタスクトレイのアイコンの色によって、電波強度を確認することができます。

モード	アイコン色による電波強度
Infrastructure	緑・...電波強度 最強～強
	黄・...電波強度 普通～弱
	赤・...アクセスポイントと通信できない電波強度です。
Ad hoc、または 802.11 Ad hoc	緑・...他の無線LANアダプタ製品と通信できている状態
	赤・...他の無線LANアダプタ製品と通信できていない状態

## 通信状態の表示..... [リンク状況]

ユーティリティの [リンク状況] タブでは、通信状態を表示します。

実際に通信が正常に行われているか確認することができます。



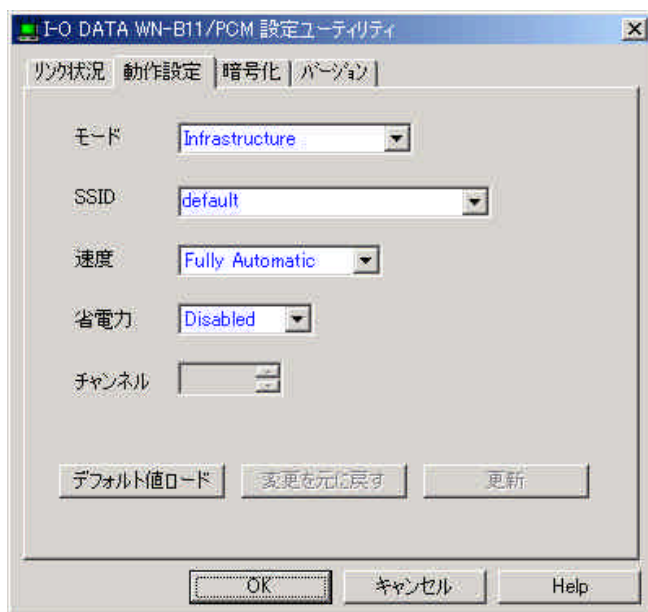
項目	設定内容
状態	<p>ドライバの状態を表示します。</p> <p>"Associated"と表示されている場合は正常に動作しています。BSSIDにはコンピュータが接続しているアクセスポイントのMACアドレスが表示されます。</p> <p>"Scanning"と表示されている場合は使用可能なアクセスポイントを検索しています。</p> <p>エラーメッセージが表示されている場合はドライバの初期化に失敗しています。</p>
設定チャンネル	現在使用しているチャンネルを表示します。
送信速度	現在の送信速度を表示しています。
[再検出] ボタン	設定されている値を使用して再度無線ネットワークの検出を行います。



項目	設定内容
スループット (バイト/秒)	現在のスループットをおおよその値で表示しています。
リンク品質	<ul style="list-style-type: none"> <li>・[Infrastructure] モード時 リンクの品質をパーセンテージ・グラフおよび5段階評価で表示しています。 リンク品質は送受信エラーの率によって変化します。</li> <li>・[Ad hoc] モード時 リンク品質に関係無く、何も表示されません。 [Ad hoc] モード時は、不特定の相手と通信を確立するため [リンク品質] の情報は取得されません。 (常に表示されません。)</li> </ul>
電波強度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・[Infrastructure] モード時 電波の強度をパーセンテージ・グラフおよび5段階評価で表示しています。 電波強度は受信している電波の強さによって変化します。</li> <li>・[Ad hoc] モード時 電波の強度に関係なく、何も表示されません。 [Ad hoc] モード時は、不特定の相手と通信を確立するため [リンク品質] の情報は取得されません。 (常に表示されません。)</li> </ul>

## 無線LANの設定.....[動作設定]

ユーティリティの[動作設定]タブでは、無線LANの設定を行うことができます。



項目	設定内容
モード	<p>通信モードの設定です。</p> <p>[Infrastructure]: (初期値) アクセスポイント（弊社製WN-B11/AXP等）と通信する場合に選択します。</p> <p>[Ad hoc]: アクセスポイントと通信しない場合で、本製品同士のみで構成するネットワークで使用する場合に選択します。</p> <p>[802.11 Ad hoc]: アクセスポイントと通信しない場合で、弊社製USB無線LANアダプタ「WN-B11/USB」とともに構成するネットワークで使用する場合に選択します。</p>

項目	設定内容												
SS ID	<p>アクセスポイント（弊社製WN-B11/AXP等）と通信する場合は、アクセスポイントの [ SS ID ] を入力してください。 半角英数字で32文字まで入力できます。（大文字、小文字の区別もあります。） アクセスポイントと通信しない場合は特に設定する必要はありません。（初期値 [ default ] のままで問題ありません。）</p>												
速度	<p>接続時の通信速度です。 以下より選択できます。</p> <table border="1"> <tr> <td>[Fully Automatic]</td><td>（初期値） 通信可能な最高速度で通信します。 （最高11Mbps）</td></tr> <tr> <td>[1 Mb]</td><td>1 Mbpsで通信します。</td></tr> <tr> <td>[2 Mb]</td><td>2 Mbpsで通信します。</td></tr> <tr> <td>[Auto 1 or 2 Mb]</td><td>2 Mbpsあるいは1 Mbpsの通信可能な速度で通信します。</td></tr> <tr> <td>[5.5 Mb]</td><td>5.5Mbpsで通信します。</td></tr> <tr> <td>[11 Mb]</td><td>11Mbpsで通信します。</td></tr> </table> <p>電波状態により自動的に設定した速度よりも低速に落ちることもあります。</p>	[Fully Automatic]	（初期値） 通信可能な最高速度で通信します。 （最高11Mbps）	[1 Mb]	1 Mbpsで通信します。	[2 Mb]	2 Mbpsで通信します。	[Auto 1 or 2 Mb]	2 Mbpsあるいは1 Mbpsの通信可能な速度で通信します。	[5.5 Mb]	5.5Mbpsで通信します。	[11 Mb]	11Mbpsで通信します。
[Fully Automatic]	（初期値） 通信可能な最高速度で通信します。 （最高11Mbps）												
[1 Mb]	1 Mbpsで通信します。												
[2 Mb]	2 Mbpsで通信します。												
[Auto 1 or 2 Mb]	2 Mbpsあるいは1 Mbpsの通信可能な速度で通信します。												
[5.5 Mb]	5.5Mbpsで通信します。												
[11 Mb]	11Mbpsで通信します。												
省電力	<p>本製品自体のパワーセーブ（PS：PowerSaving）モード [ 省電力モード ] の設定です。 現在是对应しておりませんので、<u>[Disable] のままご利用ください。</u> [Disable]: パワーセーブは行いません。 [Enable]: パワーセーブを行います。（現在、未対応） パワーセーブモードでは、通信していない場合に自動的に休止状態となり、通信を開始すると動作を再開します。</p>												

項目	設定内容
チャンネル	<p>通信チャンネル（使用する電波の周波数に番号を割り当てたもの）の設定を行います。</p> <p>[モード]を、[Ad hoc]または[802.11 Ad hoc]に設定している場合にのみ設定できます。</p> <p>同一の無線LANではすべて同じ値に設定してください。</p> <p>無線LANが1つしかない場合は、初期値のまま変更する必要はありません。</p> <p>複数の無線LANがある場合にのみ、それぞれのネットワークで別々の通信チャンネルの値を設定してください。（電波の干渉を防ぐため5チャンネル間隔を空けることをおすすめします。）</p> <p>設定値： 1 ~ 14</p>

**注意！**

- ・本製品を含め、同一のアクセスポイントと通信する無線LAN 製品は、すべて同じSSID にする必要があります。
  - ・SSID は半角英数字で32 文字まで入力できます。（大文字、小文字の区別もあります。）
  - ・SSID およびチャンネルの値が他の無線LAN と重なると、他の無線LAN に通信の内容が流れる、あるいは他の無線LAN の通信が来てしまいます。
- そのために起こったトラブルに対しては弊社は一切責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

**参考**

- ESS ID とは、本製品とアクセスポイントの通信時に使用する識別用のID です。
- アクセスポイント単位に割り当てるため、同一のアクセスポイントに通信する無線ネットワーク製品は、同じID にする必要があります。
- 無線LAN 製品によっては、ESS ID と記載されている場合もあります。
- ・アクセスポイント使用時の通信チャンネルは、アクセスポイントの通信チャンネルが使用されます。

## 暗号化の設定.....[暗号化]

ユーティリティの[暗号化]タブでは、通信の暗号化の設定を行うことができます。暗号化の設定については、【通信を暗号化するには】(73ページ)をご覧ください。



### 参考

暗号化キー入力方式の異なる他社製品との暗号化については、77 ページの【参考】を参照してください。

## 本ユーティリティについて.....[バージョン]

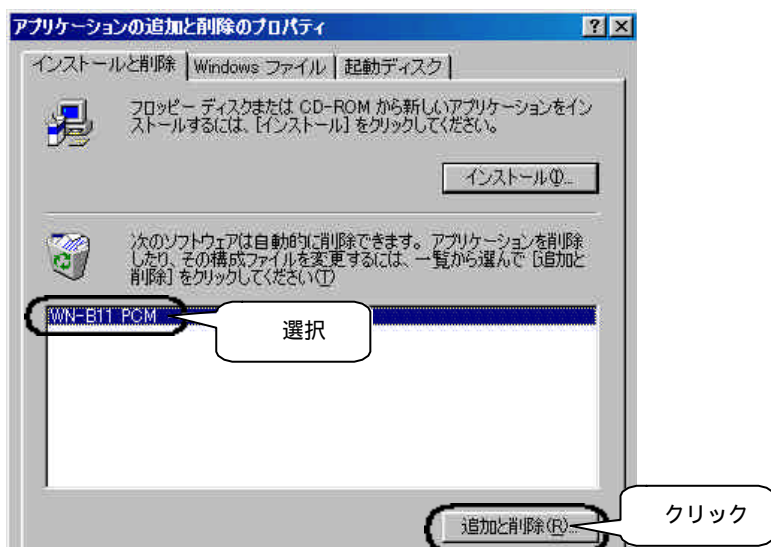
ユーティリティの[バージョン]タブでは、本ユーティリティについて確認することができます。



# 本製品を削除するには

インストールしたドライバソフトやユーティリティソフトは、[アプリケーションの追加と削除] から削除することができます。

- 1 [スタート] [設定] [コントロールパネル] の[アプリケーションの追加と削除] を開きます。
- 2 [WN-B11 PCM] を削除します。  
[ WN-B11 PCM ] をクリックした後、  
[ 追加と削除 ] ボタンをクリックします。



後は、画面の指示にしたがってください。

# ネットワークコンポーネントについて

ここでは、ネットワーク上で必要となる [ ネットワークコンポーネント ] のインストール手順やIPアドレスの設定例等を説明します。

・[Microsoftネットワーククライアント] のインストール	以下参照
・[TCP/IP] のインストール	118ページ参照
・グローバルIPアドレスとローカルIPアドレス	121ページ参照
・IPアドレスのクラス	122ページ参照
・具体的なIPアドレスの設定例	123ページ参照
・IPアドレスの設定の確認	124ページ参照

## [Microsoft ネットワーククライアント] のインストール

ここでは、[ Microsoftネットワーククライアント ] のインストール手順について説明します。

- 1 [ネットワークコンピュータ]を右クリックして、  
[プロパティ]をクリックします。





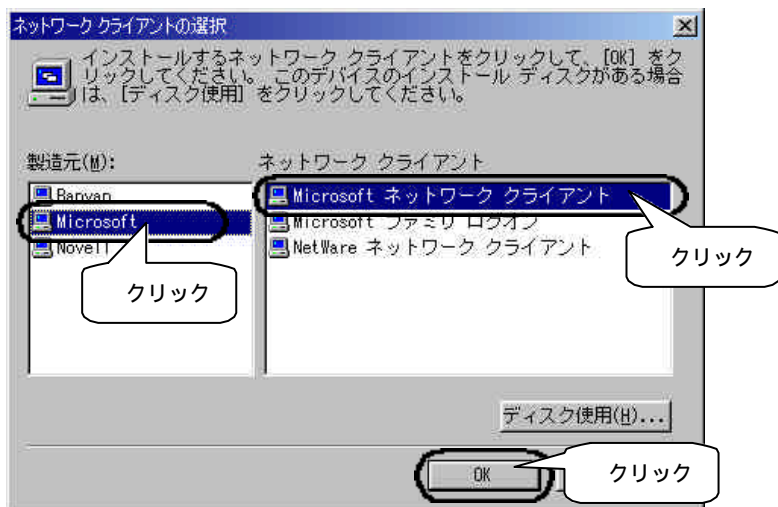
## 2 [追加]ボタンをクリックします。



## 3 [クライアント]をクリックし、[追加]ボタンをクリックします。



## 4 製造元欄の[Microsoft]をクリックし、ネットワーククライアント欄から[Microsoftネットワーククライアント]をクリックし、[OK]ボタンをクリックします。



- 5 [優先的にログオンするネットワーク]に  
[Microsoftネットワーククライアント]を選択し、  
[OK]ボタンをクリックします。



後は、画面の指示にしたがって処理を進め、パソコンを再起動します。

以上で、[Microsoftネットワーククライアント]のインストール手順は終了です。

## [TCP/IP] のインストール

ここでは、[TCP/IP] プロトコルのインストール手順について説明します。

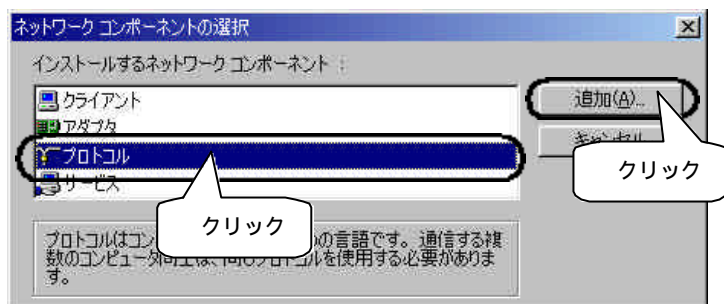
- 1 [ネットワークコンピュータ]を右クリックして、  
[プロパティ]をクリックします。



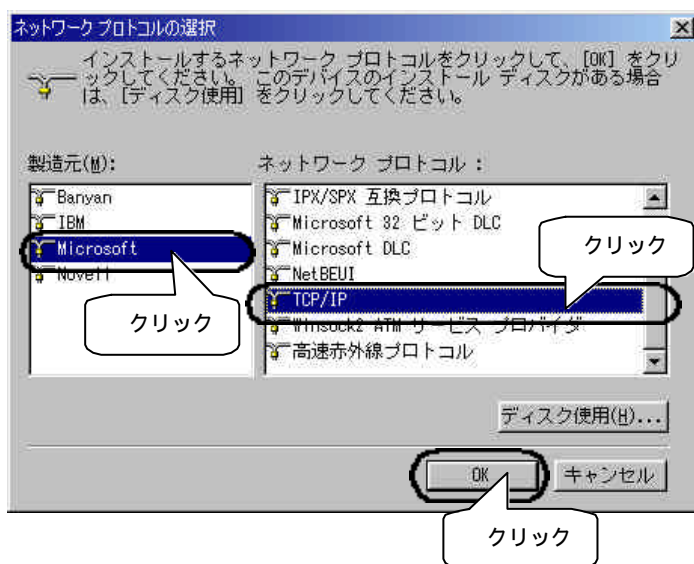
- 2 [追加]ボタンをクリックします。



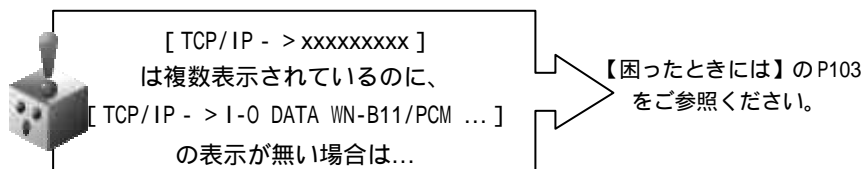
- 3 [プロトコル]をクリックし  
[追加]ボタンをクリックします。



- 4 製造元欄の[Microsoft]をクリックし  
ネットワークプロトコル欄から[TCP/IP]を選び、  
[OK]ボタンをクリックします。



- 5 手順 2 の画面に戻りますので、[TCP/IP]または  
[TCP/IP->xxxxxxx]（xxxxxxxには、お使いのLANアダプタのデバイス  
名が表示されます）と表示されることを確認して、  
[OK]ボタンをクリックします。



後は、画面の指示にしたがって処理を進め、パソコンを再起動します。

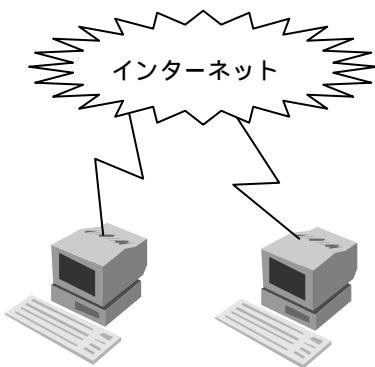
以上で、[TCP/IP]のインストール手順は終了です。

## グローバルIP アドレスとローカルIP アドレス

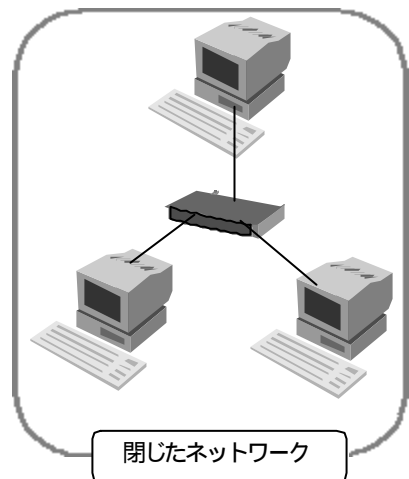
IPアドレスには、「グローバルIPアドレス」と「ローカルIPアドレス」（プライベートIPアドレス）があります。

<p>グローバル IP アドレス</p>	<p>ネットワーク上で別々の IP アドレスが必要であるように、インターネットを利用する世界中のすべてのパソコンがそれぞれ別々の IP アドレスを使用する必要があります。この IP アドレスがグローバル IP アドレスです。 通常、プロバイダより割り当てられます。</p>
<p>ローカル IP アドレス</p>	<p>インターネットに接続されていない環境（家庭内のみ、会社内のみ等）では、ネットワーク内で別々の自由な IP アドレスを使用することができます。 この IP アドレスがローカル IP アドレスです。</p>

グローバルIPアドレス



ローカルIPアドレス



## IP アドレスのクラス

IPアドレスは、ネットワークを構成するパソコンの台数に応じて、3つのクラスに分かれます。

大規模なネットワークならば[クラスAのIPアドレス]、中規模なら[クラスBのIPアドレス]、小規模の場合は[クラスCのIPアドレス]となります。

同一のネットワーク内では、同一クラスのIPアドレスである必要があります。

実際には、IPアドレスは、ピリオドで区切られた4つの数字の羅列で構成されていて、4つの数字の最初の数字の値で、クラスが分けられます。

ここの数字でクラス分け

IP アドレス    XXX.XXX.XXX.XXX

クラスは以下のように分類されています。

IP アドレスの 最初の数字	クラス	用途(ネットワークを構成する パソコンの台数)
1 ~ 1 2 7	クラス A	大規模ネットワーク用(最大約 1600 万台)
1 2 8 ~ 1 9 1	クラス B	中規模ネットワーク用(最大約 65000 台)
1 9 2 ~ 2 2 3	クラス C	小規模ネットワーク用(最大約 120 台)

「224 ~ 255」は通常の IP アドレスとしては使われていません。

例えば、数台 ~ 数十台で構成されるネットワークでは、クラスCのIPアドレスを使用します。

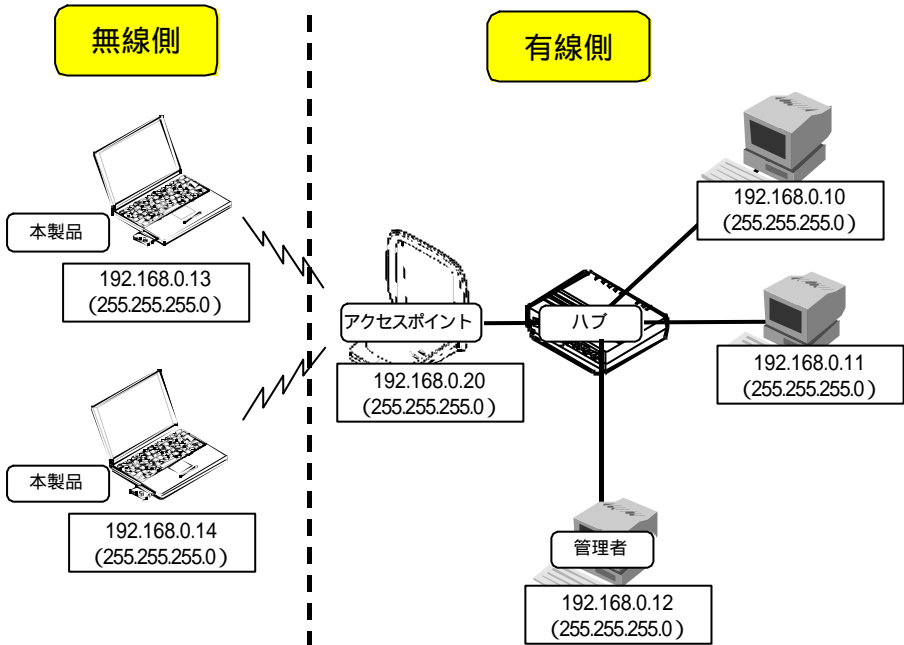
通常、ネットワークを構成する場合は、以下の特別なローカルIPアドレスを使用します。

クラス	設定する IP アドレス
クラス A	10.0.0.0 ~ 10.255.255.255
クラス B	172.16.0.0 ~ 172.31.255.255
クラス C	192.168.0.0 ~ 192.168.255.255

## 具体的なIPアドレスの設定例

以下はIPアドレスの設定例です。

お使いの環境によってIPアドレスを設定してください。



内の上段はIPアドレス  
 内の下段はサブネットマスク



## IP アドレスの設定の確認

パソコンに設定しているIPアドレスの確認や、パソコン間での正常な通信（接続）の確認は、Windows標準のコマンドで行うことができます。

### 設定したIPアドレスが正しいかの確認方法

#### ・Windows Me/98/95の場合

- 1 [スタート] [ファイル名を指定して実行] をクリックします。
- 2 [名前] に WINIPCFG を入力し、[OK] ボタンをクリックします。



- 3 お使いのアダプタを選択し、IPアドレスが正常に表示されるか確認してください。  
[IPアドレス] が「0.0.0.0」と表示された場合は、正常にIPアドレスが設定されていません。



#### ・Windows 2000/NT 4.0の場合

- 1 [スタート] [プログラム] [アクセサリ] [コマンドプロンプト] をクリックします。
- 2 IPCONFIG と入力し、[ENTER] キーを押します。
- 3 IPアドレスが正常に表示されるか確認してください。

## 通信や接続が正しくできるかの確認方法(PINGコマンド)

Windows標準のPINGコマンドを使用して相手先のパソコンに正常に通信、あるいは接続が正常かを確認することができます。



### 注意！

以下で使用するPING コマンドを使用するには、パソコンにTCP/IP がインストールされている必要があります。

- 1 [MS-DOSプロンプト] (またはコマンドプロンプト) を起動します。
  - Windows 2000の場合  
[ スタート ] [ プログラム ] [ アクセサリ ]  
[ コマンドプロンプト ] を順にクリックして起動します。
  - Windows Meの場合  
[ スタート ] [ プログラム ] [ アクセサリ ]  
[ MS-DOSプロンプト ] を順にクリックして起動します。
  - Windows 98/95の場合  
[ スタート ] [ プログラム ] [ MS-DOSプロンプト ] を順に  
クリックして起動します。
  - Windows NT 4.0の場合  
[ スタート ] [ プログラム ] [ コマンドプロンプト ] を順に  
クリックして起動します。
- 2 以下のように入力し、[ENTER] キーを押します。  
PING xxx.xxx.xxx.xxx (xxx.xxx.xxx.xxx は相手先のIPアドレス)  
入力例) 相手先のIPアドレスが「192.168.0.10」の場合は  
以下のように入力します。  
PING 192.168.0.10
- 3 正常に相手先が表示されるか確認してください。  
正常に接続されない場合、「Request timed out」や「Destination host unreachable」など表示されます。

# 本製品のMACアドレスについて

MACアドレスは、本製品裏面のラベルの下側に記載されています。

(MACアドレスは、12桁の英数字です。)



## 参考

MAC アドレスとは...

個々の通信機器に固有のアドレスで、製品名毎ではなく、個々の製品すべてにおいて別々のアドレスです。

48bit の長さを持ち、世界中において重複することのないアドレスです。

# 用語解説

## Ad hoc [アドホック]

アクセスポイントを介さずに、パソコン同士が直接通信しあう形態です。  
他にインフラストラクチャモード (Infrastructure mode) があります。

## DHCP サーバ (Dynamic Host Configuration Protocol Server)

DHCP とは各クライアントやEthernet機器へ起動時に動的に IP アドレスを割り当て、終了時に IP アドレスを回収するためのプロトコルです。

同時にゲートウェイアドレスやドメイン名、サブネットマスクその他の情報をネットワーク上のクライアントやEthernet機器へ通知することもできます。

この動的に IP アドレスの割当を行う側の機器が DHCP サーバと呼ばれます。  
ダイヤルアップルータ等の機器も DHCP サーバの機能を持っています。

## DS-SS [直接拡散・スペクトラム拡散]

無線通信における変調方式の 1 つです。  
干渉がおきにくい、ノイズの影響を受けにくい、などの特徴があります。

## Ethernet [イーサネット]

米国ゼロックス社、デジタル・イクイップメント社、インテル社によって開発されたネットワーク通信方式です。当初この方式は、基礎帯域伝達、CSMA/CD アクセス、論理バスポロジ、同軸ケーブルを使用して構成されていました。

後に IEEE802.3 として規格化され、光ファイバー、広周波数帯域、ツイストペアで運用するリピータなどを使って拡張する追加機能が定義されました。

## IEEE802.11

無線 LAN の国際的な標準規格です。  
IEEE802.11b では、通信速度が 11Mbps まで拡張されています。

### Infrastructure [インフラストラクチャ]

アクセスポイントを介して通信する形態です。

### MAC アドレス (Media Access Control Address)

Ethernet機器ごとの固有の物理アドレスです。

MACアドレスは、先頭からの3バイトのベンダーコードと残り3バイトのユーザコードの6バイトで構成されています。

ベンダーコードはIEEEが管理/割当を行っており、ユーザコードは、Ethernet機器の製造メーカーが独自の番号（重複することのない）で管理を行い、世界中で単一のアドレスが割り当てられています。

Ethernetではこのアドレスを元にしてフレームの送受信を行っています。

### Mbps (Megabits per second) [メガビーピーエス]

1秒間に伝送するデータの単位です。

11Mbpsは1秒間に11メガビットのデータを伝送できます。

### SS ID (Service Set ID) [エスエスアイディー]

複数の無線ネットワークが存在する場合に、それらをグループ化するための識別子 (ID) です。

SS IDが一致していないとそのネットワークには参加できません。

### TCP/IP

主にインターネット上などで使用される基本プロトコルの1つです。

### WEP (Wired Equivalent Privacy)

IEEE802.11bに含まれる標準の暗号化方式です。

各無線通信機器同士が共通の暗号鍵を使用して通信データを暗号化します。

暗号鍵を知らないパソコンは通信に参加することができません。

## アクセスポイント

インフラストラクチャモード (Infrastructure mode) での通信の中継点となるポイントです。

他のパソコンでは、アクセスポイントと通信することで他のパソコンと通信します。有線LANと無線LANの中継点ともなります。

## チャンネル

無線通信では、使用する周波数帯域を分割して、それぞれの帯域で異なる通信を行うことができます。

チャンネルとは、その分割された個々の周波数帯域のことです。

## ピアツーピア接続

サーバ/クライアントのような上下関係の無い対等な関係で行う通信のことです。

## ローミング機能

複数のアクセスポイントを設置した環境で、各アクセスポイントのサービスエリア間を移動した場合に、自動的にアクセスポイントを切り替える機能です。

その場合、それぞれのアクセスポイントのSSIDとWEPが同じ設定である必要があります。

# 仕様

商品名	IEEE802.11b 無線LAN PCカード		
製品型番	WN-B11/PCM		
規格	IEEE802.11, IEEE802.11b RCR STD-33, ARIB STD-T66		
周波数帯域	2.4GHz帯 (2.412 ~ 2.4835GHz)		
チャンネル	1ch ~ 14ch		
伝送方式	直接拡散・スペクトラム拡散方式(DS-SS)		
伝送速度	1Mbps, 2Mbps, 5.5Mbps, 11Mbps		
変調方式	1Mbps : DBPSK 2Mbps : DQPSK 5.5Mbps, 11Mbps : CCK		
無線設備の種別	小電力データ通信システム		
データ到達距離 (最大)		屋内	屋外
	11Mbps時	40m	100m
	5.5Mbps時	70m	160m
	2Mbps時	90m	200m
	1Mbps時	100m	240m
これらの値は、弊社アクセスポイント (WN-B11/AXP) との最大データ到達距離を 計測したものです。 環境条件により変化します。			
セキュリティ方式	WEP (Wired Equivalent Privacy), SS ID (Service Set ID) SS IDはアクセスポイント使用時		
アクセス方式	アドホック (Ad hoc) インフラストラクチャ (Infrastructure) インフラストラクチャはアクセスポイント使用時		
アンテナ方式	ダイバーシティ・アンテナ		
LED表示	LINKランプ		
ホストインターフェイス	PCMCIA PC CARD TYPE		
使用電源	DC3.3V ± 5%		
消費電流	DC3.3V: 370mA		
使用温度範囲	0 ~ +55		
使用湿度範囲	20% ~ 80% (結露しないこと)		
外形寸法	110 (W) mm × 54.0 (D) mm × 7.0 (H) mm (突起部含む)		

質量	約43g
適応規格	JATE VCCI CLASS B
認定番号	D00-0912JP



## PLANTコールセンターへのお問い合わせ

### お知らせいただく事項

1. お客様の住所・氏名・郵便番号・連絡先の電話番号及びFAX番号
2. ご使用の弊社製品名と、ハードウェアシリアルNo.
3. ご使用のパソコン本体と周辺機器の型番。
4. ご使用のOSとアプリケーションの名称、バージョン及びメーカー名。
5. 現在の状態(どのようなときに、どうなり、今はどうなっているか。画面の状態やエラーメッセージなどの内容)。

### オンライン

インターネット

<http://www.iodata.co.jp/support/>  
「PLANTコールセンターお問い合わせ」内のフォームを使用して、E-Mailをお送りください。

### 郵便

〒920-8513 石川県金沢市桜田町2丁目84番地 アイ・オー・データ第2ビル  
株式会社アイ・オー・データ機器  
PLANTコールセンター「WN-B11/PCM」係宛

### 電話

電話番号 金沢 076-260-3644  
東京 03-3254-1144  
受付時間 9:30～19:00 月～金曜日(祝祭日を除く)

### FAX

FAX番号 金沢 076-260-3360  
東京 03-3254-9055  
宛先 株式会社アイ・オー・データ機器  
PLANTコールセンター「WN-B11/PCM」係宛

本製品に関するお問い合わせは、PLANTコールセンターのみで行っています。  
予めご了承ください。

# ユーザー登録

以下の手順でユーザー登録を行うことができます。

- 1 添付のVerシールを、ユーザー登録カード、設定ユーティリティディスクの「Verシール」と書かれている欄、本書の巻末に貼ってください。
- 2 添付のハードウェアシリアルNo.シールを、ユーザー登録カード、ハードウェア保証書に貼ってください。
- 3 オンライン登録する場合(インターネット <http://www.iodata.co.jp/regist>)  
インターネットに接続できる環境をお持ちの場合はこちらでユーザー登録を行ってください。  
上記のアドレスにある[ オンラインユーザー登録 ]のフォームにて、ユーザー登録を行ってください。  
オンライン・ユーザー登録後、お手元のユーザー登録カードには、ユーザー登録番号を記入して大切に保管してください。

ハガキで登録する場合

ユーザー登録カードに、必要な事項をご記入のうえ、弊社まで必ずご返送ください。



**注意！**

ユーザー登録カードによる登録の場合、必要事項のご記入もれや必要なシールの貼り忘れがあった場合は、ユーザー登録できません。必ずご確認ください。

## 設定ユーティリティのバージョンアップ

「設定ユーティリティ」がバージョンアップした場合は、以下の方法で入手できます。

### オンライン

インターネット <http://www.iodata.co.jp/> 「サポートライブラリ」

### サービス窓口からの郵送

下記の窓口までお問い合わせください。（送料及び手数料はお客様負担）

住所 〒920-8513 石川県金沢市桜田町2丁目84番地  
アイ・オー・データ第2ビル  
株式会社アイ・オー・データ機器  
「WN-B11/PCM」 サービス窓口 宛  
電話番号 **076-260-3663**  
受付時間 9:30 ~ 12:00 13:00 ~ 17:00  
月 ~ 金曜日（祝祭日を除く）

### ご注意

インターネットによるダウンロードはお客様の責任のもとで行ってください。

# 保証について

## 保証期間

保証期間は、お買い上げの日より1年間です。保証期間を過ぎたものや、保証書に販売店印とお買い上げ日の記述のないものは、有償修理となります。また、修理を受ける場合には保証書が必要になりますので、大切に保管してください。

弊社が販売終了を決定してから、一定期間が過ぎた製品は、修理ができなくなる場合があります。

詳細は、ハードウェア保証書をご覧ください。

## 保証範囲

次のような場合は、保証の責任を負いかねます。予めご了承ください。

- 本製品の使用によって生じた、データの消失及び破損。
- 本製品の使用によって生じた、いかなる結果やその他の異常。
- 弊社の責任によらない製品の破損、または改造による故障。

## 修理について

弊社製品の修理につきましては、以下の事項をご確認の上、販売店へご依頼いただくか、または下記修理品送付先までお送りくださいます様、お願い致します。

原則として修理品は弊社への持ち込みが前提です。送付される場合は、発送時の費用はお客様負担、修理後の返送費用は弊社負担とさせていただきます。

修理品にはご使用の環境や現在の状態（『PLANT コールセンターへのお問い合わせ』の「お知らせいただく事項」）をお書き添えください。

保証期間中は無償で修理いたします。ただし、次の場合は有償となります。

保証書がない場合

保証書の所定事項が未記入の場合

逆挿入など誤った操作方法や、お買い上げ後の輸送、落下、取り付け場所の移設による破損、故障の場合

落雷などの事故による破損の場合

本製品を改造した場合

保証期間後は有償で修理いたします。

製品によっては主要部品がユニット化（一体化）されている場合があります。これらの製品で故障が主要部品におよんでいた場合、各ユニットの交換を実費で行います。

修理品送付先

住所 〒920-8513

石川県金沢市桜田町2丁目84番地 アイ・オー・データ第2ビル  
株式会社アイ・オー・データ機器  
「WN-B11/PCM」修理係 宛

修理品を送付される場合は、輸送時の破損を防ぐため、ご購入時の箱・梱包材を使用してください。また、紛失等のトラブルを避けるため、宅配便または書留郵便小包でのご送付をお願いいたします。

修理品納期問い合わせについて

受付窓口 「WN-B11/PCM」 サービス窓口

電話番号 本社 **076-260-3663**

受付時間 9:30～12:00 13:00～17:00 月～金曜日（祝祭日を除く）

申し込まれた修理品の納期をお知りになりたい場合は、上記までお問い合わせください。